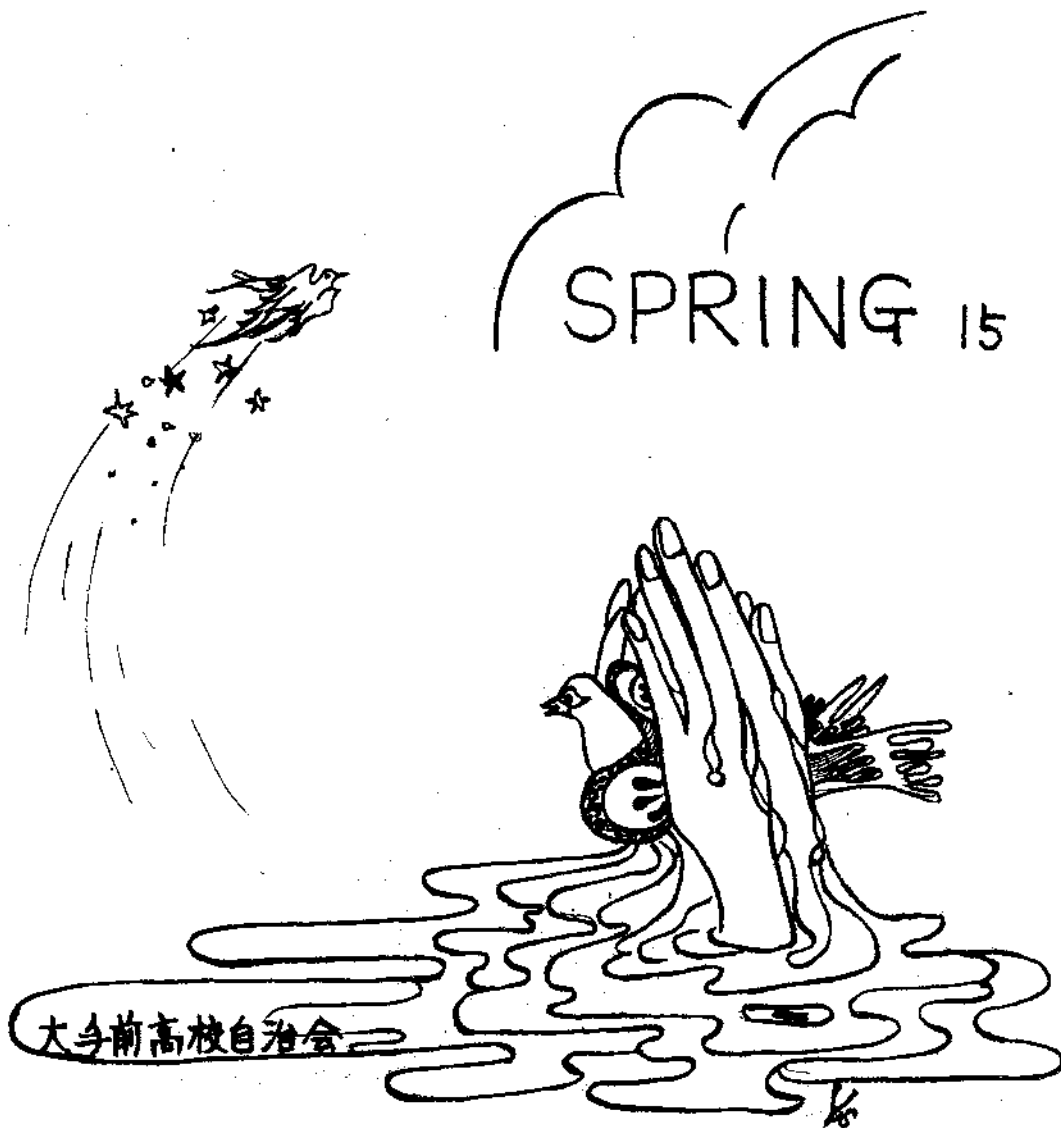


SPRING 15



大分前高校自治会

いつか君は  
どこか見知らぬところへ  
飛び立ってゆくでしょう  
息づまりそうな今を捨て  
何かを求めて  
でもその前にもう一度  
今を見つめてほしいのです  
ひとかけらの可能性も  
おきざりにしないように

—スプリング—

目次

＊ 巻 頭 言

1

＊ 自 治 会

後期会長として

後期自治会会長 植松 潤 治

4

一人ぼっちの討論会

後期自治会副会長 中 野 重 則

4

前期会長として考える

前期自治会会長 福 山 達 哉

5

S 49 校内球技大会

6

自治会祭

7

北野交歓試合

7

体育大会

8

コーラス大会

8

S 50 年度行事 (予定) 紹介

9

自治会の説明

10

＊ 提 言

現在の大手前高校生に期待すること

浜 中 武 彦 校長先生

11

自治会員であること

文化部長 大 江 弘 幸

12

自分を振り返ってみる人は偉いですね

山 口 すぐる

12

このごろ思うこと	2 / 7	尾関政達
文章を書こう	2 / 2	中川正広

* クラス紹介	28	クラス	16
---------	----	-----	----

* 先生紹介	井上先生	桑原先生	田中先生	42
--------	------	------	------	----

庭野先生	平口先生	増山先生
村岡先生	森先生	食堂のマスター氏

* クラブ紹介	硬式テニス部	軟式テニス部	バスケット部	49
---------	--------	--------	--------	----

登山部	映画研究部	地産部
新聞部	生物部	
図書委員会	S F 同好会	

* 編集後記	54
--------	----

* 詩	進化	暗乃信夫	41 15
-----	----	------	-------

白山	奥野尊子
----	------

## 後期会長として

後期自治会会長 植松 潤 治

何かを残さず。それが私の信条である。何を残すか。それには次の三つがある。一つは青春の良き思い出を残す。しかし、それは何も自治会だけがすべてじゃない。もう一つは、友情を残すこと。でも、これも自治会だけが交友の場ではない。それじゃ最後の一つ。業績を残さず。そう、これは自治会じゃなければできない。私はその目標に向かって努力している。制服問題を解決する。更衣室を改装する。芸能鑑賞を設ける。……すべてやってのけてこそ男であると信じている。そのためには、多少の苦労は気にしないつもりである。それとは別に残してはいけないことがある。それは、生徒が見向きもしない自治会である。形式上だけの自治会は残してはいけない。そんなものならない方がましである。一度つぶしてみるのもおもしろいかもしれない。かといって、そうなると今度は大手前史上に汚点を残すことになる。残すのなら真の自治会を残さずにはないか。真の自治会とは、生徒一人一人の考えにもとづいて構成される集会である。どちらを残すかは、我々生徒自身が決めること。情性で流れていくような高校生活なら、結局は何も残らない。選択して良きものを残す。これが我々のとるべき態度であろう。どちらが残るかは、非常に興味のある所だ。

## 一人ぼっちの討論会

後期自治会副会長 中野 重 則

司会 きょうは「定時制について考える」という事で討論してもらおうと思って全日制の仲野君名鹿君、定時制の納鹿君の三人に集まってもらったんだ。まずは具体的な事で食堂問題から始めよう。納鹿 この件に関する要望は「5時15分以降は食堂を定時制に明け渡してほしい」の一言だな。僕達はみな職場を終えてから学校へ来て授業を受けるんだ。一限と二限の間に一応給食が有るけど、これは完全給食でなく、満腹する程の量はないし昼から4時間程働いて腹が減っているので授業の前に何か食べたいという人が多いんだ。その時食堂に全日制の人が多くと何となく入り難いんだ。だから5時15分以降は出来るだけ早く食堂を明け渡してほしいんだ。仲野 それはよくわかるよ。でも僕らにとって、クラブの後あの食堂での語らいは最も楽しい時間でありコミュニケーションの場でもあるんだ。それにクラブの後で腹も減っている。だから5時15分までに帰るといふのは少しつらいんだなあ。名鹿 それはわかるけど、5時15分下校というのは規則だ。それを自分達のついでで破るのは少し自分勝手じゃないかな。納鹿 仲野君の言う事はよくわかるよ。僕らとしても5時15分きっちりとは言わない。ただあまり多くの全日制の人が残っていると僕らが食堂を使えないのでなんとかしてほしいんだ。

仲野 それなら5時15分という事にこだわらず、定時制の人もどんだん食堂を利用すればいいんじゃないかな。

納鹿 確かにそうなんだけどさっきも言った様に全日制の多勢いる所には何となく入り難いんだ。人教的な違いもあるし、或は僕らの心の中に何らかのコンプレックスの様な思があるのかもしれない。

名鹿 仲野君の言うのも一理あるけど僕はどうも全日制の人は少し甘え過ぎてると思うよ。全日制と定時制は全く別々の学校が一つの校舎を共同使用しているわけだ。それをスムーズに行なえる様に規則が作られ5時15分下校となってるんだらう。だからそれ以降に残っているという事は定時制の人に迷惑をかけているんだという事をもっと自覚すべきじゃないかな、そうすれば5時15分以降いつまでも食堂で長話をするという事も無くなると思うけどな。

仲野 そう言われてみれば確かにそうだな。この事に限らず僕達は定時制の人についてほとんど知らないし顔を合やす事も少ない。定時制についての認識は相当低いものだらうな。

納鹿 その事に対しては、僕らも全日制について知っている事はとても少ないね。

仲野 僕等から見た定時制の人は、私服のせいもあって僕らよりずっと大人ばく見えるし、何となく近づき難い様な印象があるよ。

納鹿 年齢層は厚いけど大部分は全日制の人と同年の17.8の人ばかりだよ。私服を着ている事と、昼間は実社会に出ている事とで多少大人ばく見えるかもしれないけど。それと今定時制の人に近付き難いと言ったけど、これは僕達にしても制服を着ている全日制の人の中には何となく溶け込み難い様な感じがするな。

名鹿 互いの環境が全く異なっているので何となくやり難いんだね。

納鹿 でもそれだけに、相手と接すれば互いに学ぶべき物が大いにあるんじゃないかな。

仲野 そうだね。互いに全く知らない世界に生活基盤を持つてるのだから物の見方一つを取っても異なるだらうし話し合えばいろんな意味で大きな収穫になるだらうね。

名鹿 うんでも実務問題としては時間的にすれちがってしまおうし、実現するのはちょっとむづかしいね。

仲野 でも考えてみれば、食堂や更衣室、教室でと接触の機会はあるが互いにあるのじゃないかな。

納鹿 お互いに何となく切り出し難いんだな。顔が合った時「こんばんわ」の一言だけでもかけられればいいんだけど。

名鹿 両方の自治会を通してそんなきっかけを作ってくればいんじゃないかね。

司会 だいぶ話がそれたけど、紙面もないし、この辺で終わろうか。

### 前期会長として考える

前期自治会会長 福山 達 哉

私が大手前に入学して感じた事の一つは、行事が多いということである。しかし、それら行事のどれをとってみても、その目的は生徒同士の和を深めるというものであり、二年が過ぎ、各行事を二回経験した今、私はそれら行事がその目的通り大手前生徒のなごやかな 団気を作り出すことに少なからず役立っていると思うのである。私は行事の集中している前期に会長として選ばれ、常任委員の仲間

達と共に各行事の企画、運営を行ってきた。そこで、このスプリングに主な行事を紹介してそれらの問題点に触れてみたい。

まず、春の文化祭ともいえる自治会祭。クラス、あるいはグループ単位による催し物を大手前の中で楽しむものであるが、問題点としては準備期間の短さが指摘された（中間審査終了後一週間しかない）。又例年土曜日の午後から行なわれていたのが今年は金曜の午後であった為、翌日の授業を考えると十分に羽根を伸ばせなかったという意見もあった。次に北野交歓。大手前、北野両校の全生徒がバレーボールや陸上競技で競い合うのである。去年問題にされた点は両校生徒の意志の疎通が充分でないという点であった。スポーツの交歓だけでなく、一般生徒による話し合いも行なってはどうかという意見は毎回出されるが実現していない。個人的な意見であるがクラスの和を深めるのに最も役立つのがコーラス大会ではないかと思う。しかし、このコーラス大会で一年、二年が優勝するとはほとんどない。三年生はクラスによって男女比が異なるためその比をコーラスに適切にようにするべく、三クラスくらいの合併で参加する。ところが、一、二年生は合併を認めても、合併で参加するクラスはなく、その結果、声量において三年生は一、二年生を圧倒、一次、二次予選ともにフリーパスのような状態である。確かに三年生は技巧的にも勝るが、今のまゝでは一年生の努力は報われない。次に体育大会、水泳大会であるが、これらは会場、つまり大手前の運動場やプールが狭いことに不満が出る。また、大手前生が本格的なスポーツ種目への積極的参加をみせないことも挙げておきたい。最後に行事のハイライトともいえる文化祭。文化祭で最大の問題は、その時期である。去年を例にとると、体育大会が九月二十

九日（同二十七日の予定が雨で延期）、コーラス大会二次予選が十月一日、文化祭が同六日と七日で、コーラス大会の決勝は七日に行なわれる。ざっとこのようなものであるが、非常に集中しているのである。したがって、各クラスとしては、全ての行事に全力投球するわけにゆかず、たとえばコーラスの二次予選通過クラスは、文化祭の準備に苦勞するといったふうである。とにかくこの日程では、文化祭の密度が薄くなることは避けられない。

この誌面に制限があるため、大部省略をしたが、大体は右のようなどころである。新一年生には理解しにくい点が多いと思うが、二年生には、行事を考え直す材料にしていたゞければ幸いである。行事は単調になりがちな学校生活に刺激を与え、生徒間の和を深めるためである。したがって、その参加には自主性がなければ無意味になってしまう。行事への参加は「強制」ではないのだから。

### S 49 校内球技大会

男子サッカー

全校優勝	2年9組
1年優勝	1年3組
3年優勝	3年6組
全校2位	
全校3位	

女子バスケット

全校優勝	3年8組
1年優勝	1年10組
2年優勝	2年4組
全校2位	
全校3位	

## 自治会祭

自治会祭については、私はあまり意見を持ちあわせていないし、現状に不満もない。例年一年生はコレに大手前の素顔を見て喜ぶ。

自治会祭とは、一学期の中間試験のあと、五日から十日ぐらいの後に金曜日か土曜日の午後を費して行われる行事で、内容は文化祭と大してかわりがない。新一年生に説明する言葉としては陽気な馬鹿騒ぎぐらいが適当ではなからうか。文化祭を秋祭りと呼ぶならば自治会祭は夏祭りであろう。十数年ほど前に始まったこの行事、いままでに幾度となく改革されて現在の形になったという。私の目から見て、この祭りの成否は、試験の後僅かに残された日程を、どのようにこなすかによる。自治会祭は、クラスの連帯性を測る測定計である。又、それ以前はまとまらなかったクラスがそれ以後になつて等比級数を見下す勢いで緊密性を増すということもままあることだそうである。文化祭に比べ準備期間も何も短い祭りではあるが、それだけに又、面白さがより一層のものになる。

一昔まえに産声をあげた自治会祭は、反抗期やらなんやらややこしい時期を経て、現在もまだまだ育ちつつあるのだ。

## 北野交歓試合

交歓とは何か。手許の辞書によると、「ともどもにうち解けて楽しむこと」である。北野交歓とて例外であつてはならない。そして現在ある北野交歓では、果してともどもにうち解けて楽しむことが

できるのであろうか。

新一年生のために少しく説明しておく、北野交歓とは毎年6月頃に行われる北野高校とのスポーツ交歓会であり、両校を会場とする。これには従来からの三原則、一、種目は体育の授業の延長。一、スポーツ交歓。一、運動系クラブ以外の生徒にも対外試合をさせる。というのがあり、これによって行事が進行される。

ところが大手前新聞（昭和49年7月20日）によると、「楽しかった」という感想もある一方では、マンネリ化や友好について不満をさしはさむ声も多いのである。又、北野交歓の目的については、本校生徒のうち76%もの生徒が友好若しくはレクリエーションと考え運動能力を高めるといふ考えの35%を圧倒的に引き離している。

そこで筆者は、従来からの三原則のみを固執する限りともどもにうち解けて楽しむことは出来ないかと断定してはばからない。もつと友好を前面に押し出して三原則を超えた方針で北野交歓を行うべきである。第一、一種目か二種目出ただけで後は退屈、或いは試合まで時間があり余つて仕様がなない。しかも北野の生徒との対話が殆ど見られない。この現状で果たして憶面なく交歓と言えるのだろうか。

そこで私は提案する。先に幾つかのテーマを決めておいて、あいている教室で試合の終わった生徒や試合までに時間のある生徒が座談会のようなものでもすればどうだろうか。それが不可能なら両校生徒の対話が広く行えるものなら何でもよい。そして全ての試合が終了した後にフォークダンスでも踊り、歌でも歌って宴を閉じる。

又、改革案に従って北野側と話し合うためにも自治会を中心とした特別委員会の早急な設置が望まれる。来春では遅いのだ。大勢は改革を望んでいる。

## △ 体育大会 △

九月二十九日に49年度の体育大会が挙行された。晴天に恵まれ、絶好の体育大会日和であった。

各クラス独自の旗やゼッケンを作り氣勢をあげていた。応援合戦もオレンジ、赤などのリボンが振られ、色彩豊かであった。またあるクラスの女子による応援は、相当練習したせいか、見事な応援で男子の注目を浴びていた。まるで高校野球の応援を見るようであった。そのような各クラスバラエティにとんだ応援合戦の中でも特に三年三組のセンスを用いた踊りは全校が笑いのうずとなり、見事に応援優勝を獲得した。

しかし競技としてはトラック競技が主で一人二種目も三種目も兼ねる者もおれば、レクリエーション種目一つだけに出場する者とまちなちで、そのレクリエーション種目も毎年名前が変わるだけの内容は同じものの繰り返し、完全なマンネリズムの現れである。

こゝでやはり、新しい、みんなで楽しめる競技の必要性を感じる。本年度において、競技者と応援者が一緒になって楽しめた種目はいくつあったろうか？ トラック競技ばかりでは応援する者も息がつかまってしまう。もっとみんなが爆笑できるような競技があってもいいはずである。その点が本校の体育大会において最も欠けている点であろう。現在の体育大会に満足している者はどれ位いるだろうか？ 体育大会を実際に行うのは我々である。おもしろくするかしないかは我々次第なのである。本校の生徒の気風には昔から無責任、無関心のところがある。来年度の体育大会こそみんな、みんなが楽

しめる種目を設け、大手前独白、生徒による体育大会を開催しようではないか！

## △ コーラス大会 △

決勝結果 課題曲「投げよう林檎を」

順位	学年・組	自由曲
一位	三年二・三・七組	五木の子守歌
二位	三年一・四・六組	ごんべの種まき
三位	三年五・八・九組	吹雪
四位	二年八組	流浪の民

一次予選では全クラスが課題曲を歌い、上位十三クラスが予選を通過した。三年生は、男女比の問題で三クラスずつ合同し、圧倒的な強さで予選の上位を占め、一年生は一クラスだけものの寂しい結果であった。

二次予選では、自由曲と課題曲の両方で審査が行なわれた。今年の自由曲選択の特色としては、フォーク調のものをアレンジしたものや、イエスタデイなどのポピュラーなども選ばれ、新鮮な感じを与えた。そして、七クラスが決勝進出を果たした。

決勝は、文化祭二日目、青少年会館で行なわれ、三年生は、二年生を寄せつけず、一・二・三位を占めた。

ここで問題になるのは、三年生のクラス合同問題であろう。今年ほど三年生の強さを感じた年はない。やはり、来年からは、審査法を変えたとともに、一・二年生の奮闘努力を期待したい。



関心のところがある。来年度の体育大会こそみんなで、みんなが楽 努力を期待したい。

## S 50 年度行事 (予定)

### 紹介

1・1 期待と絶望の一学期 1・1

〔入学試験〕 ワーイ！ お母さん大手前に通ったよ。やっと勉強から解放される！

(そもそも、これが間違いの始まり！)

〔入学式〕 よかったですね。校長先生の「おはようございます。」が聞けますよ。

〔自治会役員選挙〕 増山先生 (S 49 年度)

ご苦労さま……

〔校外教授〕 各クラスで行先をきめます。

あまり歩く所をえらぶと疲れるし、おそくなりすぎますよ。

〔創立記念日〕 5月1日 4・29と5・5の間に入り大連休となり休み続きで頭がぼけると言ってる皆さん、心配はいりませんか？

〔バレーボール大会〕 バレーをします。

〔中間考査〕 筆者は、余りの出来の良さに

感嘆、他の者は自分の実力に気づき、うれしなき？ 嗚呼！

〔V S 北野戦〕 北野高校と全校総当り戦？

「今年こそは」の連続

〔自治会祭〕 割と楽しいよ。お化け屋敷、真暗だ。

〔期末考査〕 適当に寝ていれば良い？ そしてあまりはやく倍らないように。(自分の実力の限界)？……

〔一年水泳訓練〕 思い出しても「ぞっ。」とするあのしごき。

〔臨海登山〕 こんなもあるよ。希望者のみ。

1・1 楽しい二学期 1・1

〔水泳大会〕 特別観覧席有り。ただし、落ちるとこわい。

〔アチーブメントテスト〕 よう勉強しいやあんまり失望せんようにな。あきらめたら

あかんで、あきらめたら……

〔体育大会〕 応援団結成。どのクラスにも姿人がいる。

〔コーラス大会〕 練習 練習 又 練習

〔文化祭〕 二次会に行つたまま、帰ってこない？…… ファイヤーチームもあるよん……

〔二年修学旅行〕 急に出来た、出来た。何が？…… 「カップル」？が？……

〔防火避難訓練〕 昔、出てくるの早いよ。授業終了とまちがえて、本を鞆にしまうものもある。

〔期末考査〕 がんばりやあ、なあ、(〇〇)みたいになったらあかんでえ！

1・1 なんとなく三学期 1・1

〔大阪城マラソン大会〕 外堀？ (男) 1 (女) 同。ちょっとしんどいね。

〔卒業式〕 先輩、来平一緒に入学受けました。中には二、三年後輩と一緒に受けてくれるやさしい先輩もいます。(僕もやさしくなりそう。明日は我が身……)

〔野沢スキー〕 テスト中に準備体操あり。

〔平常考査 数学と物理と英語、マア〕

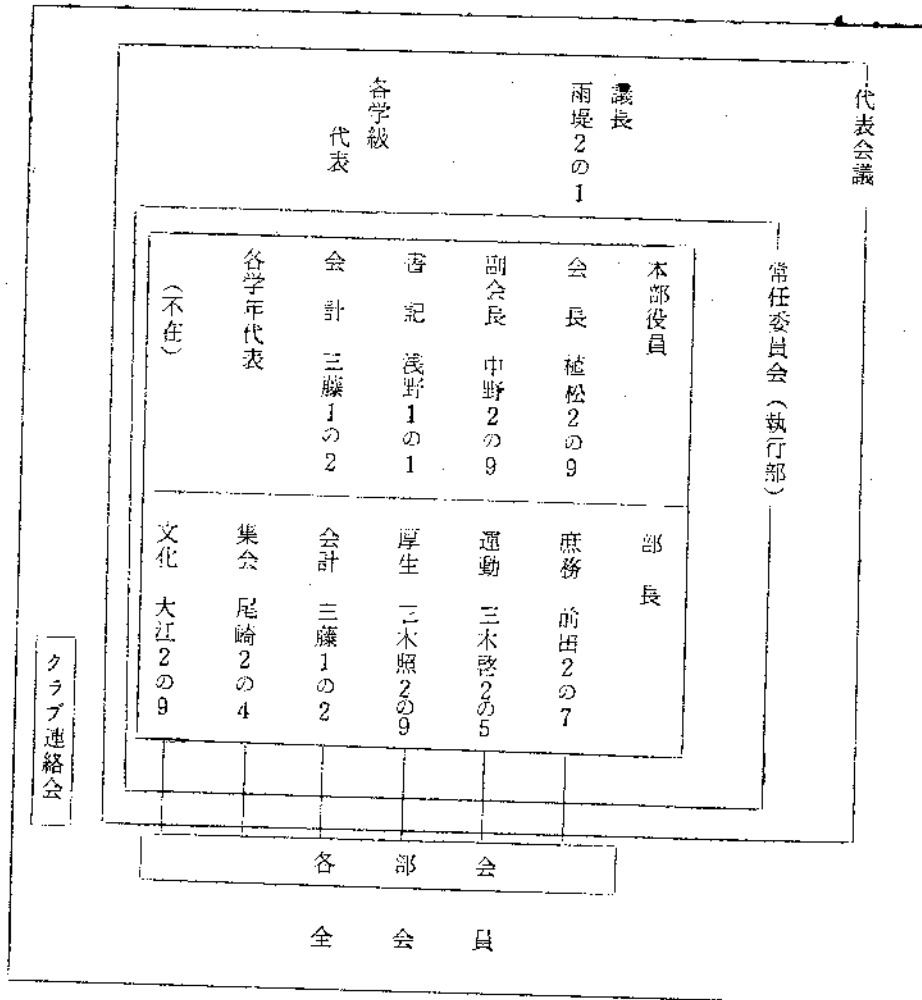
何とかなるさ。

「その人の『人脈』と『金脈』」

(法学部裏口入学の先輩)

「食べた！遊んだ！だべった！栄光の四〇五番」(ある卒業生)

総会



自治会の説明

四十九年度後期自治会は、上図のようになっています。

細かい会則については、生徒手帳に載っていますので、ぜひ一度は見ておいて下さい。

ここでは、〃全生徒の最高決議機関〃である『総会』について、少しお話しします。

本会は、毎会期初めと終りに一度、また代表会議が開催を認めるとき及び1/3以上の会員の要請のあった場合、開かれます。こゝで大切なことは、総会を召集しても、会員の3/4以上の出席がなければ、総会は成立しないということです。特に最近の総会では、出席者不足になる傾向にあり、不出席者に対しては、プリントにより、会務報告をするというしるき策をとっています。

自治会の最高決議機関が、このような状態では、今後の大手前自治に、どれほどの期待が持てるのでしょうか。

「卒業って難しいものだったんだわねー」  
 (ガムの食べすぎで留年された先輩)

## 現在の大手前高校生に 期待すること

浜 中 武 彦 校長先生

毎週月曜日の朝礼のとき、みじかい時間ではあるが、みなさんに  
対してお話していることが、とりもなおさず「期待すること」に  
なるわけだが、一言でいえば、将来りっぱな社会人となるための教  
養をつけるため、高校生活の一日一日を有意義にすごしてほしい」  
ということであり、さらに将来の目標である「りっぱな社会人」と  
は何かということに対しての私の考えは「自分の職場において、な  
くてはならぬ人」ということなのである。みなさんは、すぐれた知  
力を持ち、向上心に燃えている。これは先天的にすぐれた素質を持  
っているという恵まれた条件と、毎日努力に努力を重ねてきた成果  
とが結びついた賜であることは確かである。そして、そのことは、  
とりもなおさず、みなさんが将来社会人として存分に活躍すること  
を約束するものにはかならない。しかし、ここで私見をつけ加える  
と、みなさんには責任ある地位につく可能性は大いにあるが、かな  
らずそうなれるという確実性はない。世の中には、運とか不運とか  
いうものがある、自分の力だけではどうにもならないこともある。  
したがっていわゆる「人事をつくして天命をまつ」という心境に立  
たざるを得ない場合もありうるということを、あらかじめ覚悟して  
おく必要がある。そこで大事なことは、いわゆる世間的に偉くなる  
うとなるまいとにかかわらず、一日一日を充実した生きがいのある  
ものと考え、一身を忘れて社会のために奉仕する精神を、今から培

って頂いてほしいと思う。だが、それは言うべくして実行するのは  
非常に困難で、現在の社会では「身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ」  
という生き方は通用しないかもしれない。しかし、そういう状態で  
あればあるだけ、世のため人のために自分の職場で全力を注ぐ人間  
が一人でも多くあってほしいのである。

最近の新聞の社会面は、心の暖まるような記事はすくなく、その  
ほとんどが、強盗、殺人、ハイジャック等、暗い記事ばかりである。  
これでは、物質面ではいくら進歩がみられても、精神面ではむしろ  
退歩しているように思われる。東大生や京大生が万引をするとか、  
公立高校生（しかもクラスで一番成績がよかったとかいう）のハイ  
ジャック事件とか、そこまではいかなくても、自分自身の項で考え  
ようとせず、一つのかたよった思想を盲信し、自主性をもたない生  
徒（ひいては将来の社会人）になってほしくないということを経験  
したい。そこでみなさんに期待したいことが、他人から、あの人が  
いなければあの職場はもたない、あの人が、今の社会になくては  
ならぬ人であるといわれる人になってほしいということになるわけ  
である。スポーツの社会などで「無慾の勝利」ということがよく言  
われるが、これも勝とう勝とうと思って固くなっているチームが、  
負けてもともと、勝てばもうけものと思っっているチームに負ける場  
合のことである。要は、私心を捨てて自己の持っている実力のすべ  
てを発揮するものの強さをいっているわけで、前述の一身を捨てて  
こそ浮かぶ瀬もあれ」と同様の心境に立つものの強さだと思ふ。  
最後に、以上述べてきた私のいわゆる「理想像」になってもらうた  
めには、体力と気力がぜひ必要であると言っておきたい。大手前高  
校のみなさん、世間から「上品でおとなしい」と評価されている

ようであるが、これはあくまでも内に烈々たる氣迫をこめた外柔内剛型の人物であるという前提のもとに与えられた評価であってほしい。人生には、次から次へと困難な場面がみなさんを持ちうけている。その一つ一つを強くたくましく乗り越えていく体力と氣力を心から期待して、筆をおく次第である。

## 自治会員であること

文化部長 大江 弘 幸

『自治』中学時代僕は、この言葉にとってもあこがれを、感じていました。といいますが、当時僕は生徒会で、ちょっととした改革的な仕事をしていました。『生徒会』といっても、結局中学校のそれは、『児童会』を少し耳ざわりのいいように、言い変えただけのものでした。何をするにも、先生様の御意見を、半命令的に拜聴してから、やっとう行動にうつれるのでした。そのころ、兄が大手前におりましたので『自治会』という言葉聞いていました。そして「ああ『自治』なんてすばらしい言葉なんだ！」と痛切に感じたのでした。

さて大手前に入学して、本校の『三無主義』なるものにふれ「自治会なんてすばらしい機関があるのに、なぜみんなもっと利用しようと思わないだろう。」そう思いました。しかし、そのままいつものまにか僕も、三無主義の片棒をかついでいました。(といいますが、明けても暮れても、チニスばかりやっていたのです。)みなさんも、入学当時は、多かれ少なかれ自治会に、期待を持った

ことでしよう。それがいつの間にか三無主義に。これは現在の自治会が、パターン化された『行事消化機関』的存在になっていることから、そうなっていくのかもしれない。しかし一方、会員全員が積極的に、少なくとも自治会に関心を示せば、自治会活動はもっとやりやすくなるのです。本校は割合保守的な校風ですが、これも生徒の氣力が欠けているからで、ひとたび関心を示せば、もっといろいろなことができるはず。 (ここが中学校の生徒会と、ちがうところだと思ふ。) 現在、本校では『制服問題』について、かなり長期にわたるもめています。最近の調査の結果、中立派が50%以上もあるのです。しかし、この数字の内、真にこの問題について考え、それでもなおかつ、判断に苦しみ、中立の立場をとっている人が、何人あるでしょうか。

今、必要なことは、『自治会員であること』へのめざめなのです。自治会というものを考え直し、自分なりに自治会を解釈してみる。それだけでも、大手前自治会は、もっとすばらしいものになるでしょう。

自分を振り返ってみる人は偉いですね

山口 すぐる

日記をつけてみませんか。おもしろいですよ。人生についてもあるの疑問が生まれ、それを解決することに一歩一歩自分の歩みを感じることが出来るからです。日記は個人の記録です。人を偽る演技ではなく自分の真の姿を、心を、正直にありのままに書き止め

ることができるのです。現代は写真が普及していつでも手軽に撮れるようになりましたが、写真は表面の姿（周囲と同化しようとして自分を偽わった）しか記録することができません。それを見れば思いたすじやないかと言う人もいるでしょうが、果して何枚記憶することができるでしょうか。やはり日記という証拠物件の方が長く保存できるのでいいのです。

現在私達は数多くの人生に対する問題を持っているはずですが、と  
いうより持っていないければならないのですが、それに気付いている  
のでしょうか。やれ勉強だ、試験だ、いい大学へ行って一流会社に  
勤めるんだ、彼女とうまくいっている？などという人はいても、人  
間は何のために生まれるのだろうか、私はどう生きるべきなのか。深  
刻に悩んでいる人は少ないようです。オリジンをやって物理を考える  
だけが大手前なんでしょうか。討論をすれば意見はたくさんでます  
（中学生よりは）が、長い間じっくり暖めたものなどほとんど見受  
けられないのです。酔生夢死のうちに一生を終わらせるのではつま  
りません。折角この世に生を受けたものですから、満足感の得られ  
る何か大きな事を成し遂げたいものです。大手前の歴史は古くても  
いまだに世の中を背負って立つ人物が現れないのもおもしろい現  
象です。もっともっと個性豊かな生徒が多くてもいいはずなので  
が（先生方のように）みな同じように○○の時間には内職をし、  
先生はというとほとんど黙認とかあきらめておられる又は悟り  
を開かれているようです。内職をする方が得だと日先の事だけ考え  
て大勢を見失いがちな、所詮大人物にはなれない人間を製造する  
のが大手前なんでしょうか。そのためにも自分の行動を反省し、ま  
たの日の資料にする。日記をつける。簡単なことです。それだけで

貴重な時間を真剣に生きることができ充実できるのです。  
高校時代、そう今をどう生きるべきか考えてみてもいい年頃では  
ないでしょうか。

## このごろ思うこと

### 2の7 尾 関 政 達

一昨年の石油危機で露呈した日本の重工業主体の産業基盤が、い  
かに輸入に頼るものものであるかは再認識するに値するものであ  
ったと思う。

無資源国日本が、GNP第二位の、世界の経済大国として君臨し  
ているのは、安価な労賃と輸入資源によるところのものであること  
は疑いない。しかし、オイルショックを発端とする一連の資源保有  
国の、UPPECやCIPPECに象徴される資源ナショナリズムの高  
まりは、原油や鉄鉱石、原料炭の値上げをよび、先進工業諸国は、  
これまでの搾取に痛いしっぺ返しを受け、少なからぬ影響を生じ  
ている。日本などでも甚だしいインフレの影響で今や高度経済成長  
の神話は消え、毎年の大幅賃上げと相まって日本製品の国際競争力  
の低下が叫ばれている。また数年後には雇用の悪化が生じ、失業者  
数は二百万人に達すると予想されている。

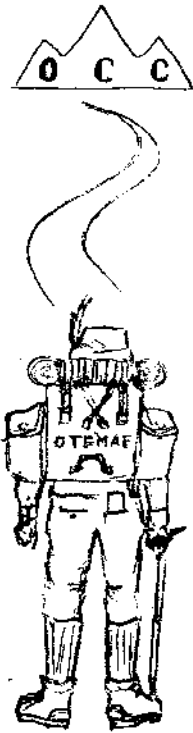
しかし、こゝで日本の経済成長ばかり考えてはおれない。日本経  
済に欠くことのできない鉱物資源は、いよいよ先が見えてきたので  
ある。たとえば金（10年）鉄（240年）、石油はよくもって60年ほど  
であると予測されている。そして世界の資源輸入に占める日本のシ

エアは約十二%を占める世界第一の資源輸入国である。ローマクラブの「人類の危機」というレポートは、食糧問題からも資源の面からも、人類は成長の限界をむかえつつあると報告している。

にもかかわらず現在の日本は多量の資源を自国の利益のみを優先させて消費しているのではないだろうか。日本の経済優位が続く限りは、その上にどっぴかりめぐらをかいて無神経な資源消費や開発途上国への経済支配を続ける事が出来るかもしれない。(しかし、公害や東南アジアの非日デモに見られるように、決して長くは続かないであろう。)また、日本などの先進諸国が資源を搾取している後進諸国の人間の大部分が慢性的栄養不良に悩まされているという。

私たちが日本人のいったい何%が栄養不良に悩まされているだろうか。現在の日本の食糧の潤沢さは海外からの輸入食糧に依存しているのが現状である。こんな資源も食糧も大半を輸入に頼る日本が、今後の安定輸入を望むならば、自国の利益優先態度を改めて世界共存の道を歩まねばならないことは明らかであろう。

そのためには、日本人が近視的な物の考えを捨てて、世界的視野で、日本の現状を把握していくように努めていかなければ、本当に日本人は世界の孤児となるのではないだろうか。われわれとて例外ではないであろう。



## 文章を書こう

2の2 中川正広

もっと、文章を書こう。文才のある人もない人も。作家と称する職業の人達だって、名文と言われるような文章は希にしか書いていないんじゃないか。名文を書こうなんて思う必要はないんだ。毎平、秋になって文化委員を困らせることないじゃないか。

文章なんてものは自分の考えを人に正確に伝えることが出来さえすれば、或いは読者に何かを強く訴えることが出来さえすればそれでいいんじゃないか。もっと文章を書こう。美辞麗句を連ねるような修辭上の技巧は二の次なんだから。

書は言を尽くさず、言は意を尽くさずという。確かに文章を書くことは難しい。しかし、それは名文とは言われないまでも、よい文章を書こうとするからじゃないだろうか。「書は言を尽くさず」言いたいことの十分の一でも分かってもえれば、それでいいじゃないか。

折りに触れて文章を書こう。自分が何かに感激したり、打ちひしがれたと感じたときに、その感情を書くことは悪いことではないと思う。芸術家なら絵の具の配合や音符の続き具合によって感動を表わすかもしれない。しかし僕達にとってそのようなことは神技に近いことである。普通の人にとって最も容易な感情の表現や意志の伝達手段は言葉の筈である。そして、それを文字に表わしたものが

文章なのである。だから、「〇月〇日、カノジョに振られた。非常に悲しい」とか「△月△日、家族でハイキングに行った。オヤジがボートに乗ろうとして池にはまった。これがオレのオヤジかと思うと情なかつた」と言うような程度でも、時々、文章を書こう。

僕は何か大きな感情の動揺がある度に、あるいは過去にあった感情の動揺を思い出す度に、それを文章に留めることにしている。だから、僕の書棚には大字ノートが三冊ほどたまっている。時には空を舞う蝶の気持で、又、時には涙にむせぶ悲しみの気持でペンを走らせると、どういう訳か喜びは倍増し、悲しみは半減されるのである。みんな、文章を書こう。

これは余談になるが、文章は簡単なものであり、かつ最も強い力を秘めた武器である。田中首相を退陣に追い込んだのは一本のペンでしかなかった。得に「ペンはカネよりも強し」である。こうなれば文章は感情の表現という生やさしいものではない。情報社会を維持し、支配する情報伝達の手段である。辛いにも我が国では非常戒威令もなければ金芝河氏のような目にあうこともない。それだけに言論は史上最悪の宰相を政權から引き降り降ろすだけの力をも持っているのである。勿論僕達の文章にそれだけの力があるという訳ではない。しかし、スケールを極めて小さくすれば、似たようなことを起こさせる可能性は否定できないのである。

文章を書こう。そして、文章の価値を見なおそう。自分で文章を書くということは、他人の文章へたとえ、それが名著であろうとも（を読むと同じぐらいの価値があるのではなからうか。

文章を書こう。あなたが、今読んでいる文章だって僅かす時間下書きから浄書まで出来るんだ。

文章を書こう。あなたが、今、読んでいる文章のように下手でもいい。文章を書こう。せめて、この記事で、僕のいいたいことの十分の一でも分かってくれたら、それで僕は嬉しい。もっと、文章を書こう。

## 詩 進 化

暗 乃 信 夫

豚を見かけることがあるだろう

あの諦め切った目

人に食われる為だけに

姿を変えられた生きもの

薄ぎたない小屋の中で

悪臭に耐え

殺される日をじっと待つ

生を受けた日以來

醜くく肥らされ

あざ笑われ

殺される日をじっと待つ

嘗ては猛獣としての紋章であり

誇りであった牙

それが今は

残飯を食らう惨めな歯でしかない

# クラス紹介

## 28 クラス

1 年 1 組

わがクラスかつては西瓜王国と名付けられたことがあった。西瓜王国、それはわれわれクラス員の脳みそにつけられたニックネームである。つまり、西瓜のように脳みそがうすいということ。西瓜王国の建設とその誕生忘れもしないあの自治会祭での名演技。あれとともに西瓜王国は誕生し、同時に破滅したのであった。フムフム、ニタニタ。今わがクラスには円盤が飛来し（見学したい人はいつでも御自由に）スーパースカタンが数学の授業に登場し、破壊したり、びさんが出てきたり、何とか中学の三ボケトリオが登場したり種々様々である。そういえば組長も登場したっけ。いまわがクラスは、アホの集団として形容され、その汚名をなくするために一致団結中(?)。しかしアホな集団と呼ばれているが運動の面ではいささかまし(?)なので

ある。バレーボール大会でも全校第三位だったし、水泳大会は優勝したし（あのときの表彰状はまだもろてないぞ!!）、女子のバスケットも良い線をいっている。（やっぱりコ！ラス大会は一次予選で落ちたなあ）われわれが多賀谷先生は「おまえらは勉強はあかんさかいに運動の方ががんばれやなっ」實際その通りになってきたではないか。これは困った。最近、わがクラスには『芸人』と呼ばれる人間がだんだんふえてきた。芸人とはくれすなわち芸をする人間のことである。ワハハハハ。あしたは請れるだろうか。芸人ははずかしさをかくして芸をしなければならぬ。最近はずかしさをかくしてでも芸をしようとする人間がふえてきた。話かわって最近秋の陽気のためだろうか、それとも冬の暖かさのためだろうか。授業中、睡眠薬をのんだように熟睡するものが出てきて、その一人にインタビュー。「貴君はなぜそのように眠るのか」と聞くと貴君は「夢の中に

山口百恵が出てくるからや」と。考えてみればあいつは山口百恵に惚けたやっだ。この時間もまた眠っている。ニタニタとうす笑いをしながら。わがクラスで特にシンドル的な存在にあるのが、『水だきの材料』と異名をとる一男性。どうやら彼は非常に『引力の実験』が好きそうなのである。なぜならば彼氏は入学間もなく『引力の実験』をしてわれらが師に激怒をおたえたのである。ハッキリいうならば、二階からチヨークによって引力実験をおこない、下にいた一先生に物体の作用として力を与えたのだ。（反作用は各自で考えること。）まあいろいろ種々雑多と申すべきなものでしょうか、なんと申しましょうか、わがクラス一はうずをまきながら躍進しているであります。フムフム。レンコン畑のおじさんは元気かいなあ。わがクラスの長所その一、さわぐことと天下一品。その二、団結心に富む。短所なし。ほんまかいな。ニタニタ。躍進する一に栄光の星あれ。えびろうぐ。来半二年生になるみなさんへ、もしわれらが多賀谷先生のクラスになったならば、水だきの材料にされないように注意しよう。西瓜王国、ハムレット、パンザイ。ケタケタケタ。あしたは雨だろうか。



## 1 年 2 組

「静かだなあ。」

今は、六時限目、晩秋の午後をみんなそれぞれに過ごしている。一生懸命、授業を聞いている者？名、黒板にまとめられた内容を写す作業におわれる者？名、睡魔と必死で戦い、かろうじて意識のある者？名、ついに力尽きて机に伏し夢路をたどる者少数、そしてスプリングの原稿作成に苦しんでいる者一人、その他。

一年二組が、大手前高校三〇七号教室に生まれて、はや一年。今、何も書かれていない原稿用紙を目の前にして、私の脳裏には実にさまざまな思い出が、とりとめもなくよみがえってくる。

もう、ずいぶん前の事であるが、バレーボール大会で、我二組の女子は校内優勝を遂げた。雨に降られてズクズクになりながら夢中でボールを追い、手にした優勝トロフィー、私は二組の輝ける未来をひそかに心に描いたものだ。しかし私の期待は次々と裏切られた戦いを好まず、勝敗にとられることなく、ただひたすらスポーツを楽しむ、我クラスは

ど「参加する事に意義がある。」という精神を尊重し、実行したクラスはまれであろう。みんな気持ちの良いスポーツマンとウーマンばかりである。

又、体育大会において、応援団なるものを組織、野球部の名キヤッチャー氏を団長とする総勢十二名のりりしい姿は、感受性の強い乙女たちの目をうるませるに十分であった。

六月の自治会祭では、オカルトブームに乗っておぼけ屋敷をやった。準備期間が短くてどうなる事かと心配したが、どうにかこうにか間に合った。けれども、肝心のオバケのなり手がいない。二組の方なら男女を問わず誰でも、たいした苦勞もなくオバケになれるはずなんだけれど。(注・筆者は除く) そうこうしているうちに、オバケに身をやつし、そうじ道具入れに潜伏することを申し出られた方がいた。一同その御仁のクラスのた

めを思う心に感動した……。オバケ屋敷は、わずか三十分足らずで崩壊した。

十月の文化祭。大活劇「船乗りクラブの冒険」。この劇は二組の誇る某ファミリアの手によって企画・演出されたもので、女っ気抜きの殺伐とした舞台だったが、出演者の方

々の、その役になり切ったみごとな演技によって、講堂は興奮のつぼと化した……

私は、本番、リハーサル等合わせて幾度かこの劇を見たけれど、その都度、笑い過ぎて涙が出た。この劇は喜劇だったのだろうか。

幾多の激闘を乗り越え進む我らに、鈴木先生 of 厳しい愛の目が注がれる。天上遙かに輝く明星！大手前の星をつかむまで、二組の汗と涙の精進は続く。 — おわり —

## 1 年 3 組

あーまたやっちゃった。「今日の方」「ミスター？」「今の男」「ハイ、あんた恐怖！！そやけどようこの恐怖にも慣れましたなあ。これならどんな恐い世間へ出てきつと生存競争に勝てるでしょうね。

クラスのまとまりについて、いろいろ考えた三組だけど、私はこんな三組が大好きです。四組は嫌いです。毎日四百米お走りになるあなたなど、このクラスがなければ心臓衰弱で「あの世」へ旅立っていらしたことでしよう。あの娘がいれば、僕だって泣きたい気持ちやならないさ。(ホント？)

大阪城に見守られる三〇八教室、我らが三

組は他のクラスとは毛色が違う。ケムール星人・猿の惑星の生き残り。土星がどぶし、紙ヒコキも飛んでいる。中部地方(?)から白い手紙がとどけられ、TS様は代償機制にげまれるとか。

子曰、「何為不去也」。曰、「無無。」

覚えていません、あの日のことを。色々(?) あったあの日のことを：ウアーケケ。「勉強しましたか」なんて聞くのは野暮なこと。皆自分では真面目だと思っているのですから。優しい先生方に生まれ授業中ついウツトリ。しかし? 何事にも例外はつきものとか。一時の緊張も良いものでした。

一年の月日は長かった春のごとく、又文化祭では、講堂に参加欲減作用を起こさせた名悲劇「マッチ売りの少女」を上演、また自治会祭でのクラブ「信子」も赤鬼青鬼だけに受けてしまい、桃太郎が退治に出かけるという始末。けれどもついにやったのです。サッカー大会。カワユイ女の子たちの声援にお答えして見事「優勝!」バンザイ、赤鬼、キリスト、先生、大仏様よ、アリガトウ。女子のバスケットも惜しかったナ。あの時美しき少年たちを見てしまったのだ。乙女たちのたくましき姿を(あの夜は眠れなかったよ)

覚えていますか? 遠足のこと。平城京跡においで云々。嵐山でも頭張ってました。妙見山での飯盒炊きさん、腹痛の菜もいらずに済んでヨカッタ。すき焼き、焼きそば、うどんすき、ギョーザにごった煮にバーベキュー、各班みんな大成功?

入学当時、丸坊主だった双らも今ではもうフサフサ頭、思い返せば本当によくこの一年間、我三組がもちこたえたものだ、感心の至りである。みんなアリガトウ?

一年三組、四月になれば旧三組になってしまふ。一年三組。妙に寂しく心に響く。

この狭い三組、穴あきだらけの教室で芽ばえた限りない友情、そして愛、そしてそれらが、いつの日までも永遠に絶えることのないものであってほしい。またいつの日にか、過去の多くの栄光を胸に一九七四年度一年三組四十五人プラス井上信子先生が元気で集うことをここに記して今、長かった思い出の幕を閉じようとしている。

その時 ジョージ・フォアマンは言った。「これがオモロイ 何ととっても」(?)

## 1年 4組

一年四組 担任名 小野昭平先生(京大理学部卒) 会長名 前期 渥美毅 後期 高木正

クラス略歴

四月 入学式。多種多様な自己紹介で下敷きまわしの特技をもつもの一人。麻雀の趣味をもつものピタリ四人。例によって中学の自慢が始まる。但し、T中とM中シヨボン。五月・校外教授 奈良から柳生街道へ、予定の行程が十一KM・ところが誰の心がけが悪かったのやら道に迷ってしまい、全部で二十三KM歩いた勘定になる。小野先生が森林管理人につかまって恥をかく。

初の中間考査・みんなガックリ。先生カンカンに怒る。「フザケルナ」

六月・自治会祭 迷作「白雪姫」初演「バンザイ」(?)

七月・期末考査 「アーア」

水泳訓練、終業式 成績表を手に充実した気分を味わう!

夏期休暇・皆よく遊び、よく学び、二学期への期待?も大きかった。

九月・アチーブテスト 席次を見て満足感を感じた人もいたとか？

体育大会 この日、一日チャートもオリジナリティも忘れ、皆、大奮闘

十月・文化祭 物理教室にて映画「どつきりカメラ」を上映。この時はクラス全員の協力がよく感じられた。

中間考査・遊び半分の気持も吹き飛ばし、一生懸命にベストを尽くす。

十一月・球技大会 男女とも奮闘したけれども……

十二月・期末考査 最後まで力をふりしぼってハッスルする。

ジnkスとは恐ろしいものである。特に我四組の担任、小野先生の持つジnkスは、的中率99%？で、その効き目はまさに驚異である。そのジnkスと我がクラスにおける影響を四月から順に見ていくと、第一番目の影響は奈良県柳生街道で起こった。その日の様子は、遠足目的地の若草山へ向かう我々が、途中で道に迷い、その上、立入禁止地区に入っ

から降り出すというどちらにしても悪影響のものである。第一番目以降次々と起こったのは、バレーボール大会をはじめとする各学級の競い合いにおいて、必ず一回戦又は二回戦で負けたということである。でも、これらのジnkスを通して、我々の団結も強いと筆者は思う。文化祭においてもコーラス大会においても、又体育祭での応援やその準備においても皆、積極的に協力しあったと思う。この四組の一見地味ながらそのなごやかな雰囲気、これらの行事を通して筆者にはよく感じられた。そのなごやかなマツチした、又なごやかな小野先生と生徒との間における心の通じ合いを大切にしたい。四組バンザイ！

### 1年 5組

我アジトは、他のクラスから隔離された、本館の三階のほずれにあり、とにかくその構造は奇怪そのものである。第一に、ドアはといえば、前に一つつきり（中には後の窓から出入りし、出入口は絶対に2つだと主張する者もいるが……）あ、又、辞書が、うしろのロッカーにいつも備わっている（定時制のものだと言うやつもいるのだが……）

次は環境について。音楽室が隣接しているため、いつでも、さわやかなメロデーが、（時には奇妙な……）三時間目になると食堂からラーメンの汁のにおいが、へや全体に充満し、ついそれにつられてN君が弁当を……又、府庁からは、真昼のデートのたのしそうな声が。それから、窓からのぞくと、だれが便所で手を洗っていないか、一目瞭然！！

そして、ザ・メンバー・オブ・アワー・クラスについてひとこと。先ず何といっても、全校に名がとどろく、柔道部三バカトリオの初段（自称三段）S君、百キロ近くあるといわれているH君、それにジュンことT君の三人。そしてこのごろでは、三人と行動を共にする、ラグビー部キャプテンK君。いつもにこにこ登山部T君、そして先ほど登場したN君と筆者であるわたくしS君のサッカー部コンビ、元会長變の毛もじやもじやのナンテイ部E君。そしてクラスのアイドル、キミちゃんなど、そろいもそろって46名。今まさに、咲きほこっている我5クミ、一年の中では5組の右に出るクラスはおそらく無であらう。とにかく、この半年余における業績は、輝やかしき栄光の体育大会全校優勝！！最もこれは、東中出身のスーパーウーマンKさんの努

力のたまものであるが：（彼女一人で得点の半分程をたたき出したとか？）

他には、何一つ賞状はなく、バレー・女子バスケット、男子サッカーはすべて一回戦負け。

（サッカー大会のキーパー・ジュンのトンネル）こんな面白いクラスである故かどうか、一

学期に二回の定期クラスマッチ、つまりスタディーの方は、団体戦においても、個人戦に

おいても、全て完敗。クラス平均は、常に学年平均を下っている位置にある。この前のア

チーブはその典型で、上位三十位に、何と我5組は一人もランクされておらず、下の方に

群がり集まるという栄誉を獲得したのである。まあ、ひまな人は三十一号教室をのぞきに

いらっしやい。そこには、人間とも怪物とも見わけのつかぬものが、自分をめだたせよう

と必死になって芸をやっておりますから。あなたは、そこに大手前の本性をみることに

しよう。勉強などしているやつが、どんな目にあっているかも身にしみてわかるでしょう。

5組で勉強できるわけがないのです。ところが話ばかりですが、このごろでは

教室が、「賭場」なのです。休み時間になると（ならなくても）飯をもってきて、その上

でトランプの花が咲くのです。ハートで十二

枚だとか副官マイテイーとか。筆者は真面目なものですが：。あっ、忘れていました。た。

この集団を統轄している元締めです。つまりホームルーム担任ですが、僕等には、まぶし

い人なのです（何がまぶしい？）そう、クワバラ先生です。先生ほど器用な人は大手前に

はいないでしょう。左右どちらの手でも字を書かれるのです。そして、とてもやさしい人

なのです。この先生だからこんなになごやかになったのだと思います。

ところで、期末頑張るぞ!!二次会やるか?

## 1年6組

一年六組のクラス紹介を一発。まず、入学当時の六組の四十五人中四十四

人は、大手前の雰囲気になじめず、お弁当の時間など、言葉を交すものもほとんどなかつ

た。その中でたった一人、ピートルズのサムシングなど大きな声でどなりちらし、みんな

のどぎもをぬいた。異様なぼっちゃん刈りの人物がおった。彼のおかげで6組の空気はや

わらげられ、じよじよに騒がしくなってきた（と筆者は思うのですが：。ところが、そ

の彼も近ごろではテストのショックが大きす

きたためか、今ではおとなしくなっていました。話は変身して、わが六組は大手前でも珍ら

しいジブシークラスなのです。授業のたびごとに教室を移動しなければならぬのです。

そのうえ、おとなりは三年。そのせいか六組の成績は非常に優秀であります。（筆者はこ

の後に「た」の字を書こうと思ったのだが、諸先生方の顔を思い出し、六組のみんなの顔

を思い出したのです。）さて、自治会祭において、六組の開催した

「ゲームコーナー」はすごい人気をよび、まじめに職務を遂行された人はヘトヘトに疲れた

のです。文化祭では、「桃太郎と刑事クロンボ」という傑作を上演し、ものすごい評判

と人気をよびまし。（この後筆者は「た」という文字を書くべきかどうか非常に悩み苦し

んだ末、一時は六組でもはやったこの表現で止めておくことで妥協したのです）文化祭二

日目の青少年会館における紙飛行機の飛行コンテストに六組も参加したのですが、あまり

ふるいませんでした。残念!この日、生駒山へハイキングに出かけた者も数名おったそう

な。

次は運動会のお話。

バレーボール大会では、女子は学年優勝。男子は六人制においてなんと学年優勝、全校で三位。スバラシイ!!

水泳大会は、全校五位。体育大会は、学年二位。スゴイ!!

とにかく運動万能のクラスなのです。エッ?とてかく先生のことを一発。

ここで先生のことを一発。六組の担任、阪本千秋先生は、朝夕の通勤にはあの有名な(そう、でもないかなア)帽子をかぶり、学校ではいつも黒いコートを着ているのです。先生曰く、「あの帽子は非常に便利ですね。朝髪をとかなくてもいいし、冬はあったかいし: : : o t t o (実は筆者は先生の授業の時間を睡眠不足を補うのにあてているので、よく覚えていないのです)

阪本先生と言えば掃除には非常にご熱心でございまして、放課後教室がきれいになっていくか(女子が当番のときはたいいていきいではない)、見にこられるのです。(十一月十八日、筆者が膨大な原稿用紙を前に頭をかかえている時にもやってこられた。)

こゝで新入生諸君に忠告を一発。阪本先生の授業中に寝るべからず。寝ていると必ずあたり、顔をまっつあおにひきつらし油汗を流さなければならなくなり候。

とにかく一年六組は、非常にわきあいいいとしたあつたかいムードのクラスなのです。その暖かさのためか、しばしば居眠りをするものも多少ありましたが、筆者はこのクラスのムードが大好きなのです。

以上、乱筆でつまらない紹介文でしたが、それは筆者の現国の成績と、協力者であるベキ人物の非協力さを考慮して、お許しいたゞきたいのです。文化委員 バンザイ!!

1 年 7 組

みなさん、こんにちは。我が七組は、荒井先生を先頭に、ユニークな個性でいっぱいです。名づけて『荒井ファミリ』

それでは、最近、のりにのっているメンバーたちの声を聞いてみましょう。

すうどんがおいしい!!私って幸せ!!ダワ: : えーと、それからついでにラーメンもおいしいのです!! あー 体重が体重が体: : ポイフレンドが欲しい!! 一女子より

ガールフレンドが欲しい!! 一女子より。あるカップルがいちゃついているーイジイジどーしてこの世の中で、女子だけが家庭科す

るの? オイ!! メン作れ: : : 男へおしつこの取り方。不思議だなあ: : : ??

寒いわ、寒いわ、だれか暖めて!! ただ今化学の時間ータイクツ、ヒマなんだワ! 今、お弁当、食べました。お腹いっぱい。幸せ!! 次は現国です。授業を聞いてるうち、にまぶたが自動的におりてきます。おやすみ。

千林とか放出とか築港とか、不思議な地名が飛び出すのが楽しい。勉強になりました。もうクラス替えなんていやだなあ。一年で早いですねえ。文化委員へ「こんな自分で書け!!」

大手前の七不思議の一つ。ミスター鳩子の足はなぜ短いのか? イまともにとれ!! お前はだれだ? フフフ、ひと呼んで赤潮飯面だ!!

あアまた一年がむなしく過ぎ去って行く: : : まちがい学級七組バンザイ!! 秋の風が寂しく僕をよぎる。ああむなしい、なんてむなしいんだろう。そうだ明日きようを食べよう!!

大阪城がわらつとる。ピクターの犬も笑っている。何もかくことないなあ。大阪城マラソンいややなあ、また、一層足がへるやんか。いややなあ、大手前高校よいとこ一度はおい

で、酒はうまいし、ねえちゃんはきれいだ、ワアッワアッ、

これから呼ぶクラスの庶務委員は：：：  
片町線に放出と呼ばれる駅あるなり。

愛が放しい、おれは愛に飢えているのだ。

フォークダンスは楽しいな。キヤッサバはお

いししいか？数学教師の趣味はヨットなのです、  
街頭にて「大手前」という言葉聞いて何を  
連想するか聞いて見ました。「秀才学校……」

(つきなみな人)「ボロ校舎」(卒業生らし

き人)「地に花、人に心」(カーペンターズ)

「わしや広東料理じゃ」「ぼくはヤンリクで  
す」ピートルズも言いました。そして私は  
彼女を愛す。女性心理の研究をしよう。

## 1 年 8 組

授業中、フト窓の外を眺める。青々とした  
葉もなく、無惨にも枝を切りおとされた木々  
がひっそりと立っている今日此頃。

思えば、クラスの仲間が初めて顔を合わせて  
から、随分月日が流れたように思う。

最初は、みんな緊張して、言葉一つをか  
すのにも、心を配ったものでした。

ところが今やあゝなんたるまででしょう。

みんな自分の地をさらけ出してしまつて、大  
きく前のめりになつて寝ている者、小さな子  
供が読む、少年マガジンやマーガレットなど  
に心をうばわれ、目の色をかえて読みふけっ  
ている者など、予想もつかぬ結果になつてし  
まいました。

今から振り返つて見れば我々のクラスは、  
なにをやつても全く「ベッタ」とよばれる地  
位を口俊、必死に守り続けてまいつたのであ  
ります。

コーラス大会(一年で8位)・体育祭(全校  
でブルービー賞受賞)文化祭(シラケ鳥がとび  
回つた劇ミトコウモン)など数々の名誉ある  
記録が残されているのであります。

では、なぜこのような地位をカクトクするこ  
とが出来たのでありましょう。

それは、我8組がほこる大手前の大スター「  
キッサバ先生(本名・渡辺光一)」が我々の担  
任だからなのです。

ではこゝでキッサバ先生をゴシヨウカイい  
たしましょう。

一見、ひきしまった顔、(実は少しニヤケ顔  
)。一見、くっきりと形のよい口(実は少し  
たれぎみ)。一見、女の子にモテそう。(実  
は？：：)というような先生なのであります。

まあ先生のアダ名にもいろいろありますが、  
「キッサバ」と言つて知らない人はまず大手  
前には存在しないでしょう。

(注)キッサバとは中南海地方でとれる

イモの一種なのです。

まあこの辺で担任の紹介を打ちきりクラス  
メイトに話をうつします。

色々な野郎やアネサンがおるが八組ほど個性  
に富んだクラスはないであらう。

授業のベルがなつて先生が入つて来られて  
もまだ教室にいない。どこにいつているかと  
言えば必ず便所にお世話になつてゐるT君。  
八時二十七・八分天満橋着の電車を降り、白  
い鼻いきをゴーゴーとうならせながら走りこ  
んでくるT君。

テニスコートを、野口五郎ばりの足で、おも  
いっきり大またで走つてゐるK君。

ケラケラケラ、キヤキヤキヤまわりかまわず  
大きなかん高い声をあげて笑いまくるAさん。  
また、勉強、クラブの鬼は言うまでもなく、  
キッサバ先生のファンまでいるのです。

数年後、いや数十年後、再びこの文面を読  
みなおして我々は、どのように感じるであら  
うか。

数十年後、我々が再び出合い、お互いに話し

あう時どのようになつてゐるでしょうか。  
長い黒々としたひげをたくわえてステッキを  
ついで歩いてゐるでしょうか？（男子）  
美しくなり、夫の影となり日となるつつまし  
いオヨメさんになつてゐるでしょうか。（女  
子）。

どのようになつてゐるかは、わかりません。  
けれどこの一年、あつさりすててしまふには  
しのびなく多くのものを得、また多くのもの  
を失いました。

これが、我々の一度かぎりの青春です。  
これが、我々の一年八組なのです。

## 1 年 9 組

さて書くとなると、最初に何を書いてよい  
のやらとまどう場合が往々にしてあります。

○入学式。眠気とアタビの内に終了、講堂の  
ひどさに一同感嘆。○平常考査 落胆せざる  
をえなかつたもの過半数、前途多難を痛感。

○中間考査、平常の不出来をも忘れひたすら  
さぼり続け自ら墓穴を掘つたもの多数、連日  
の徹夜にもかかわらず失望のドン底へたたき  
おとされたもの若干 ○自治会祭、恐怖のお  
化け屋敷なるものをやつてのけた。

教室内には豆腐と糸こんにやくがみだれとび  
水鉄砲の集中射撃をうけたもの多数、顔をひ  
きつらせて出てきた入館者の服はビショビシ  
ヨ、頭には豆腐のさく裂跡、学校中の噂と非  
難の的となる。バレーボール大会、九人制は  
まずあぶなげもなく無事一回戦敗退。つづく  
六人制は十組との接戦の結果、予想どおり敗  
退、女子も足並みをそろえてこれまた一回戦  
敗退。これには一同ほとほと感心。さてこれ  
で一学期はこんな具合になんなく終了したか  
のように見えました。が、日に日に我がクラス

は打ち解けあい、かつての緊張感もどこかへ  
うっちゃって、ハジというものを忘れ、恥  
の境地をさまようようになってしまったので  
す。恐怖の水泳訓練。夏休みもすぎて二学期  
に入ると、クラス内は乱れに乱れ、授業も  
時限目となると、落ちてしまうもの多数（落  
ちるとは柔道の専門用語）もつとも、朝から  
ずっと眠りつゞけてゐるものもあるが、  
静けさや壁にしみいる、「イビキの音」。その  
上、清掃というものをだれもせず、教室内は  
紙くずと砂、埃にうもれ、我々はその中でま  
っ白になつてうごめていたのです。○コ  
ーラス大会。大半が声を出さなかつたので、

点はさほど悪くなかつたが、そのためか声が

小さく予選で姿を消す。○体育祭、胸にニコ  
ニコ太陽マークをつけ一回大ハッスル。ここ  
において、ガイコツマークをつけた著者は二  
○）○メートルを見事走破し、わがクラスの  
最多得点者となつたわけです。○文化  
祭我々は遂に一丸となつて、かの有名な純愛  
ロマン、「シラノド・ベルジュ・ラック」な  
るものを講堂でやつてのけたのです。出演者  
一同は、恥をかなり捨て、前半のトチリ、  
シラケをも、後半の熱演でカバーし、そのあ  
まりのすばらしさに、観客も見とれてしまひ

遂に、一機の紙飛行機も飛んでは来なかつた  
のです。なお、二次会の内容も書いてみたい  
のですが、某筋のお達しにより、その内容を  
暴露することは禁止されてゐるのです。（こ  
こで筆者はあらためて文春の記者の方々の勇  
気に敬服せざるをえないのです）。サッカー  
バスケットボール大会。男子は足の短かさに  
もめげずひたすらボールを追いかけ、みごと  
学年準優勝、女子は、あたりに殺気をみなぎ  
らせて奮戦、しかし、おしくも二回戦敗退、  
といった具合で誠にみんな楽しくやつて来た  
のです。我がクラスは、遠く伊太利亜の古き  
文芸復興の精神をうけつぎ、ヒューマニテイ  
を尊重してゐるのです。若干（いや多大？）

ネジのゆるんだクラスではあるが三無主義、人まかせ主義のはやるクラスなんかとは比べものにならない楽しいクラスなのです。(少動方面においては、下から数えて何位、といしほめすぎであると大いに反省)だから、みんなの調和をみだす裏切者が出ると、即刻、廊下へ追放なのです。(少し書きすぎたかね?)我々は一年九組を愛し、高校生活の一年を楽しんでます。きつと我々は宇宙の平和の輪を広げ、アスラー総督の野望をうちくたく者となるでしょう。(大和まけるな)。

## 1 年 10 組

例年、大手前高校は一学年9クラスでありました。それがなぜか私たちの年は10クラスになったのであります。つまり45人ふえたわけです。そして、その増加分の45人が集まったと噂されているのが、我が1年10組であります。半端者の集まりだ、などという陰口にもめげず、本当は美男美女揃い、と書くことには多少の抵抗があるのですが、45人すくすくと育っていったのです。別段、身長が10cmも伸びたとかいうのはありません。ただ、それぞれひとりひとりが精神的に、大きく前進?したということなのであります。

精神的に、といえは我が10組は「文化的」なクラスだったのであります。体育大会など運動方面においては、下から数えて何位、という感じでしたが、文化方面(筆者注・テスト等勉強に關する事は除く)においては、「文化的」な特徴を遺憾なく發揮しております。まず、自治会祭での「おひるのよみせ」では、金魚すくいや風船つり(ヨーヨーつりではありませんぞ)などをしました。これらはかなりしりました。しらせる」という言葉がわからなかったら10組へ行け、と言われるほどであります。

コーラス大会では、1年でただ1クラス一次予選に通過しました。これはまさに奇跡といふべき事実なのです。何しろ男子諸君の中には「恐怖の半音くずし」を得意わざとする人がおりました。彼らの将来を考えて名前をふせておきます。それが、いかにも美しく異様なハーモニーをつくり出していたのであります。一次予選通過というのはどう考えても、目を血走らせていた女子の方々(特に「音楽部コンビ」)の念力としか思えないのです。まったく念力はおそろしいものです。それにしても、10組の「文化的」なところを最大限に發揮したのは、やはり文字通り文

化祭でありましょう。そうです。あの80脚映画「四次元からの使者」であります。特殊撮影をふんだんに入れたこの映画は映画界に大きな波紋を投げました。とスタッフ一同は思っております。ゲストには、我が10組の担任である岡田忠良先生。先生は、いつも物静かで、怒いを秘めたその微笑みは、岡田スマイルとして知られております。をはじめとして中來田、河瀬西先生、渡辺先生をお迎えして、知る人ぞ知るかの有名な食堂のマスターにも御出演いただきました。なかなか好評で、入場を待つ人の列が佇序の食堂の前まで続いたといわれます。

最近、男子諸君は博漢、チェス、五目ならべ、オセロ等のゲームに狂っております。しかし、これも「文化的」な生活を求めているのだと筆者は思っております。何といっても10組なのです。しかし、ゲームの様子を観察しておりますと、勝負をしている当事者のまわりに第3者と呼ばれる者が大勢群がって、ああだこうだと騒いでおります。(かくいう筆者もその第3者の一人なのであります)はたして、こういうのを「文化的」と言うのであろうかと考えてみますが、やはり10組なのです。「文化的」なのであります。



そろそろ文章が乱れてきたようです。話題を交えましょう。もう最後となりましたが、これは特筆すべきことでありますが、我がクラスにはカップルが4組もできています。このことをあまり詳しく書くと「独身」の方からネタミの声が出そうなので詳しく書けません。とにかく4組もカップルができるということは、クラスの雰囲気が非常によいということです。それを示しているのではないかと思うのです。それでは、「独身」のネタミの声としてある男子君の和歌を書いておわります。

我知らで 君恋し人すでにあり  
さみしき冬の 鯉と思はる

## 2 年 1 組

僕は、このごろ、しみじみ、時が、止まってくればよいと思う時があるんだ。それは自分が年をとるのがいやなわけでも、生きてゆくのがいやなわけでもない。ただ、この二年一組が、四ヶ月後に存在しなくなるという現実が、僕をあーやんなっちゃうって気持ちにさせてしまった。僕の泉のようなやる気を裂いてしまうんだ。

大体、僕に言わせると、一ヶ月以上もHR

教室が、なにも等しい状態であったのに（一年生の一クラス増の為、去年の自治会室が、僕等のHR教室となったわけだが、図書館、自治会の移動に日数がかかった為、僕は毎時間教室が変わるというジプシー生活をおくらねばならなかった）。今日の二年一組の姿がこうあるというのは、とっても不思議なんだ。五郎先生（中塚五郎氏教科 化学、僕は、物理を習っている）が、九月ごろ合唱の練習を見て「引っ張って行く人がいない感じ（す）と言わはった時、何かわかるような気がしたが、現在では、少々納得がいかない。

ばってて、今では、足の踏場もないほど（表現がどうもひがみっぽくなっていることは、わかっているんだが：）カップルが出来上がり、確かな情報によると、七カップル、三片とか。冬の暖房いらないと思われる位なんだ。

△一組のささやかなる足跡をたどってみる△  
五月・バレーボール大会は、x回線にて惜敗（x≥1）十五日、現在のHR教室にひっこし、ろう下に穴をあける。校外教授は、京都落北、お池にはまってさあたいへんな者y名（y≥1）中間テストは、ムニヤムニヤ。

水無月・自治会祭は、喫茶久保出を運営、大繁盛。第一回二次会開かる。北野交歓では、遠慮を示して男女とも敗退。走り高飛びで奮戦せらるクラスメイトあり。

文月・期末テスト ムニヤ。夏休み。  
葉月・物理、補習 参加率九〇％。  
長月・アチーブ！よし若干、悪し若干、声が出ない者多数。合唱コンクールは、第一次予選で、不調に終わり、あわやと思われたが、無事通過。第二次予選は、涙をこえて（クラスのある方々が、レコードから音をとって四部にしたもの）をひっさげて登場したが通過ならず。しかし、精一杯の結果と思う。体

人、からすの子の三部合唱のうまい三娘。これに対抗する彦ちゃんトリオ、ケーキを焼くのがうまい人（彼女は他にもおいしいクッキーが焼けるとか）、秘密のアッコちゃんの歌が好きな人、ウチデのコソチを持っているのか、毎日ヤングへ行く人などがいてはるクラスなんだ。

とところで、文化祭以来、みんな相当にがんばって、

現がどうもひがみっぽくなっていることは、わかっているんだが：）カップルが出来上がり、確かな情報によると、七カップル、三片とか。冬の暖房いらないと思われる位なんだ。

育大会は、サムソン氏とヘラクレレス氏の活躍のおかげもあって準優勝。学年優勝、また、応援がヨカッタ。二次会では、オリジ氏と出合い、写真をとってもらって却解散。

神無月・文化祭は、別館にて、ヘルスセンター・ゴローを運営。占い(当率48%)、ホンマにヨー(4)ヤッタ(8) 映画、舞台、バザールの四本立て。七日の後の帰宅時刻。23時。蒲月・六ツ木の模木テスト会、進学指導連盟発足。平常考査に貢献。バスケット、サッカーに惜敗。(何でも惜敗?)

## 2 年 2 組

一筆啓上。別館一階に二年二組有り。府庁の日陰なれば夏に較多く冬に風寒し。一年を通じて暗き教室なり。担任有り。名を於理寺卑呼と謂ふ。二十九才。数学の教師たり。四月始業式より雨の漏れたる甚し。「一階なれど雨の漏るるか」と尋ぬるも翌日似た問ふ「外に晴れたれど、内に降る。これを如何とす」連日の豪雨警報に四十五名チゴイネルと為りて校内を彷徨す。斯くして始れり。二年二組高麗犬(注 広辞苑で狛犬を見よ)ここに其之足跡を記さむ。(狛犬とは筆者の渾名)

いんし五月の遠足は、飯盒持たり行きにけ

り。遙か島へ彼方行かむと海を越えたり。淡路島。海峽も眺めは広し春の妻。女子をして世話女房と為せしむも昼食を食はむが為なり。自治会祭。白け白けて紙芝居三本立。「かちかち山」「奈死病の仮面」「アラビアンナイト」アラビアンナイトに目を輝かせ来たるあり。失望して帰る。谷崎潤一郎曰はく、「アラビアン・ナイト」というものは全体大人の読む本なんだよ。その中から子供が読んでもいいような所だけを採めたのが、お前たちの持っているやつさ」(夢喰う虫)上汲したの

は子供が読んでもいいような斬である。月交りて七月。期末考査有り。皆誤す。故に夏休みは共に数学を学ぶ。其の学力上昇には金脈宰相物価急騰氏もが唯啞然たりと言ふ。二期期アチーブは数学の平均点学年第一位となり、他級の追いつきざりき。

運動諸大会に於いては、遠くは排球、体育大会等に本誌掲載の如き好成绩を上ぐれども近くは蹴球、籠球ともに奮わず。三学期の栄華ぞ切望せらるる。コーラス大会にては朝練無用と言いつつも一次予選をば下から二番め、二次予選をば嫌なく最下位で通過。私服フリツケ付き「怪獣のパレード」を青少年会館に

感かしめき。

文化祭あり。「犠牲者は誰だ!」で人をし

て突はしめ、独特の体操で有名な体育教師をして生の栗をかじらしむ。爆笑三千里に響けり。

信州紀行はギヤグとトランプ。紅葉映ゆ鬼押し出しの黒き岩。白樺の湖面に映る志賀の秋。

既にきいろい銀杏の舞う季節となり。余す月日もあと四月。憶い返せば深く刻み込まれた懐い出が薄明の脳裡に濃む頃である。

ある者は窓の裏を楽しんだであろうし、又その蔭で袖を濡らし嘆いた者もあろう。ある者は運動場を力一杯駆け廻ったであろうし、又夕日さす図書館で読書三昧に耽った者もあろう。個々人の懐い出はそれぞれに趣を同じくしないが、新喜劇の極限値2年2組にいたという懐い出は、たやすく風化するようなものではない。

拙い墨跡留めてある間にも、夕暮れのラジオはオーケストラの幕をとじようとしている。アンコールを求めて止まない規則的な拍手がスピーカーを通して聞こえてくる。

読者諸君、2年2組とはこういうクラスなのだ。

「……むむ」今年四月自分の名前を三組に見出した時、筆者は思わず唖った。教人を除き、あとは聞いた事もない名前ばかりではないか。その上、知っているほんの二、三の名前の持主は、ことごとくアノ方面で大活躍の人なのだ。人の噂に依ると、他の人々も、そうらしい。しらせ組にならねばよいが……

本当に呆れてしまった。笑わないのだ。先生が洒落を言っても、皆は先生の顔を見つめているだけ。全く表情のない顔で。休み時間だって、クラスのはぼ全員が教室に居るといふのに、妙にしいんとして、言葉を交す人さえない。……これが三年の一学期だった。

校内大会で好成績をあげたなら、こんな雰囲気も打ち破れたろうが、あいにく我三組は運動音痴の集合体。その上、チームワークがもう一つ。そのため、バレーボール大会、北野交歓会に惨敗を喫し、体育大会でも学年最下位。全校最下位にならなかつた事に狂喜するありさまであった。

しかし、コチコチで真白の三組も、文化祭で喫茶店をやる頃から、少しずつ軟かくなっ

て来た。修学旅行を前にして、色もついて来た。「恋愛双曲線」を地で行く悲喜劇の人々(筆者を含む)が大発生したのも、この頃。

そして修学旅行。昼間は、ウバザクラ嬢の名調子を子守歌に、夜は布団の中で充実した話し合いが続けられた。昔でやった変電所も楽しかったが、それよりも握った手を通じて伝わってくる連帯感の方が、筆者には嬉しかったのだ。

そして、現在十一月下旬。三組のメンバーは、やはりアレには熱心であるし、おとなしいし、スポーツだって弱い。シラケるときもまだまだある。でも、一学期とは違ふ。みんなの個性が光り始めている。校内サッカー大会をござらん、みんな、本当によくやったではないか。自慢の前髪を乱してヘッティングした者、闘志が余ってボールならぬ人間に飛びけりを喰わして審判にもう一度やったら退場だと言われた者、ボールを空けりしてひっくり返った者、決して長いとは言えない足をフル回転してがんばった者たち。PK合戦に敗れ、最下位に決定したけれど、それでもいいではないか。悔いはない。

結論。二年三組は、よその組から見ると、何かアレばかりしているように見える(事実

そう言う面もある)が、内側から見ると、一人一人が、派手さはないけれども手ごたえのある個性を持っている。かめはかむほどじんわりと味の出ってくるクラスなのである。(追記。筆者は、アレに対するコンプレックスのために、アレということばしか使えなかったのである。他意はない)

編集部追記：「アレ」とは「勉強」である。

静寂の中に身を没し二年四組とともに過ぎ去った月日を想起する時、堪え難い淋しさを感じます。過去の一場面一場面が夢か幻の様に脳裡を駆け巡るのです。というのはそれだけ二年四組が良いクラスであったからではないでしょうか。

クラス分裂などと、とかくの風聞の中にあってもいざとなれば見事な一致団結振りを示し、担任の佐野先生をして驚嘆せしめたものです。文化祭を御覧なさい。コーラス大会を御覧なさい。結果なんて問題じゃない。力一杯やったことが重要なんです。舞台上立つものは勿論、裏方の見事なバックアップ。それらの全ては私欲を脱した美しくも崇高な姿を

のもです。その貴さに思わず流涕したのは筆者だけではありません。我クラスのことながら、まことに立派でした。

ふと窓の外を見ると星が輝いています。たとえ、いつの日にかこの星の光が絶え果てようと、今、この瞬間、優しく力強い光で我々の目を慰めてくれたという事実は万古不易、

永久に滅びはしないのです。この一瞬々々に生きた星の光：何と荘厳で美しいのでしょか。そしてこの星の光こそ、我々二半四組の一人々々の姿なのです。永遠という名の巨大な塔の中に四組の仲間達の名は、たとえ全員がこの地球から姿を消した後も確実に残っていくのです。「快哉！」筆者はこう叫びたい。一抹のむなしさにむせびながら叫びたいのです。そうすれば楽しく、またそれだけに哀調を帯びた想い出が雲の様に湧出するでしょう。

その色々な思い出の中に、一際光彩を放っているのが、そう、修学旅行です。今思えば本当に幻の様な五日間でした。志賀高原の大自然の中に両手をひろげて佇立し、この一瞬こそ我々の現在の幸福の象徴、神聖なる支柱として崇めたあの感激？宿での友との語らい。激論、歌声。その収録は修学旅行だけがもたらすことの出来る偉大なものでした。最後の

夜、全員が四一九号室に集まった時、しみじみ良いクラスだなあと感じ入りました。青春の二度ない夢を映せ木戸池、夜の明けるとき、ああ麗しの志賀高原！

風は吹き、木は枝を震わせ、せまり来る落日に峰は最後の雄姿を輝かせ、黄昏の山の端に星が光る。冬の到来を告げる渡り鳥が風とともに飛来し、我々の悲しい思い出を啄んでくれる。嵐の様に飛び去っていく雲とともに奇声を発しながら遙かな夜空を頭脳鳥が飛んで行く。あてなき頭脳鳥よ。お前は何を求めて彷徨うのか。大蛇の如く曲りくねった紅い谷底の流れに何をおもうのか。お前の行く手に立ちほだかるあの峰は今、最後の光を夕陽から受けている。やがて日が落ち、闇が訪れた時、雄大なるその姿を峰は崩し去るであろう。跡に残るのは何？無か？否。渡り鳥は風に羽をなびかせ、舞い落ちる雪に目を細め、清い流れに身を洗い、壮絶なる別離の哀しみと美しさに心を震わせ、無を否定する。日が沈んだ後も月の輝きは、光々と大地を照らす。その月の光の源は、沈んだ筈の太陽な

のだ。やがて、渡り鳥が飛び去る時、残された水はほんの僅かな濁りさえも否定し、透き通った清水にその底を写し出す。この清麗なる流れこそ永遠に繋がる時の流れそのものだ。その透明さは過去の青怒哀楽の感情に色どられた思い出を描写し、日の光を反射した月の光を更に水面に浮かべる。二半四組よ、汝はそんなクラスだった！

## 2 年 5 組

初代の公爵タバコがお好き。

次の公爵タクトを握り、村のみんなを従えて、国の大会に乗り出した。

村は集って一つの国を形成し、各々の村は半半ずつ交代で国王を送り出しましたから、王座をめぐるの政争など起ったためしがありませんでした。私の故郷の村からも、一人国王が出ました。自治よ。民の政治よと日夜励んでいらっしやいましたが、民はなぜか祭以外の事には関心を示しませんでした。この国には国王の上に絶対的権力を持つ法皇連合がありまして、国王は民とそれとの板ばさみで精力をそがれやせ細っていらっしやいました。

村の貴族方の叙位も一年に二度行われましが、村人は何故か社交会とやらを嫌って、貴族には余り成りたがらぬようでした。

村のはずれには年を経た魔法使いが住んでいました。朝になると村へやって来て、呪いに満ちた言葉を吐きちらし、折々は不可思議な魔法の道具を婦人方へ向けてパチリパチリを盛んに術を行ないました。またその魔法使いは遠い国の訳の分からぬ言葉をしきりにいじくり回し、派生語がどうのと村人を不安に陥しいれは楽しんでおりましたから村人のうちにはshiketanとか略して称する護符を身につける人もいたようです。でも私は詳しくは存知ません。

それは何とエレガンスな国民性だったでしょう。しかしその点ではその村の人々がきわだっておりました。決して出すぎることはない、国の競技会でも部門の優勝があるだけでなく、あ、そうですね。エレガンスとは運動オンチの事ではないので……。話題をかえましょう。そうだ。九つの村で一斉に行った秋の大遠征の話をしてしましよう。不思議な事夜の集いとすると河日も誰かがいなくなるのです。それについての取りだたもいろいろとなされたようですが、初心な私には何の事や

ら分かりません。腹巻きをなさった男爵がよく赤い顔をしていらっしやったのは何故でしょう。

その前の文化の祭には、国王自ら二メートルは有るロボットを村のためにお作りになりました。それを最後に国王は位を退かれて村の政からも遠のかれて隠者の如く晴読雨読の生活に入らせられました。又、有志とやら申す劇団が結成されたのもこの時です。

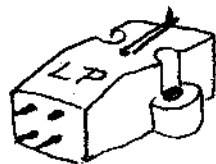
村は余りに平和すぎ、遂に二代目公爵以下が改革に乗り出しました。その結果村は班に細分され回覧板が回されました。

私はご覧の通りアコードイオンを弾きながら尋らしておりますが、村人は誰も職業というものを持ってはいませんでした。唯プロと称する人が居て何のプロかはついに分からずじまいでしたが、その方は馬の名を種々と知っていました。

初代の公爵はタバコがお好き

それは古い王国の小さな村のお話

私は町角のアコードイオン弾き



2 年 6 組

校舎の長い廊下を奥深くまで通り抜けるとそこは二の六。入り口は一つしかなかった。

窓側の机から女の子が立って来て僕の前の戸を開けようとしたが、びくともしなかった。僕は必死になっている彼女の顔の物憂さに驚きながらも、二人で一緒になって戸と奮闘した。戸は開いた。彼女は息を弾ませて「おはよう」と言った。僕も「ヤハ」（二の六の一部の者が用いるあいさつの言葉）と答えた。朝早い教室に二人だけであった。二の六の女子と二人きりしていると何をされるか判らない。危険を感じた僕は、カバンを置くか教室から出ようとした。が、それよりも早く彼女は僕の襟首をつかんでいる。「ねえエ、ちょっとオ、スプリングの原稿書かなあかんから手伝うてエ」と彼女は言いながら、僕の首をつかんだまま彼女の隣のいすに座わらせ「ねえ、この一年何があったかしら」僕は答えた。「は、はい。まず自治会祭が五月にありました」「そうそう、劇『怒りの桃太郎』やったわア。あれでだいぶんみんなの本姓特に男子の本姓が表われたみたい。自分はプ

ルース・リーやと思ひ込んで喜んでるのもお  
 ったし、ほうきを振り回して喜んでるのを見  
 たときはあきれたわア」「は、はい。すみま  
 せん」「別にあやまることないわア。見てる  
 だけでおもしろかったモン。えっと、次は？」  
 「そうですね。いろいろあったけど文化祭が  
 ありました」「『怒りの浦島太郎』ね。そや  
 けど、続けて同じ様な劇ようやったわア。そ  
 れに最後まで何をやるか決まらなかった。そ  
 やから本番は不手際だらけ。ライトがつか  
 なかったり、幕が降りなかったり。それで主役  
 が本番中『ライト付けて』」「幕降ろして  
 『音楽』』なんて言ったりして……」「結  
 果としてはそうなっちゃったけど、皆が同じ  
 目的であんなにまとまっていた事は今考えて  
 みてもよかったです。コーラス大会に  
 しても、体育大会にしても」「そうね、それ  
 から忘れられないのが何とんでも修学旅行  
 」「『そうそう、天気の具合が悪かったんでバ  
 ス旅行って感じになってしまったけれど、旅  
 館でやったゲームはみんなすごく乗ってた  
 と思います。日頃の化も恥じらう17才の乙女と  
 思われた(?)女子が、キャンデーの取り合いで  
 女子プロレスさながらの壮絶な闘いを演じた  
 のには男子一同開いた口がふさがりませんで

した……」「あらア、そんな事あったかしら  
 それにしても、男子の方々サッカーでは御苦  
 勞様でした」波女の急にしろらしい口調に驚  
 きながら「もう少しで学平優勝だった。時の  
 運が向こうにあったんだ。それにしても、女  
 子の声援はうれしかったよ」とやや横暴に言  
 い放って、しまった?と思つたが以外や以外  
 「でもこうして一年を振り返ってみて、二ノ  
 ロクってどんなクラスだったかしら」とおと  
 なしい口調であった。(実際二一六の女子は  
 みんなやさしくて、かわいいの評判?)僕  
 は考えた。かなわんのウ、おまえら何やって  
 んねん。バトミントン狂、うすのろ、運想ゲ  
 ーム、班ノート、声帯模写……e.t.o。  
 最後に大手前の諸先生方に、二一六につい  
 て一言。

校長先生 「わだじの……息子が……この……」

……：グラスに……：おりまじだ……」

南先生 「はあはあはあ、いやいや、私の息

子も、ゴホッゴホッ、おりましたですなあ」

黒田先生 「どの列から当てられてもええよ

うにせなアカン!!」

そして担任の

清水先生 「まず二一六ダネ!!」 ヲハッ。

私たちのクラスの特徴を一言で言い表わす  
 には、非常に困難である。ちよつとしんどい  
 つまり、「これが7組だ」といえるものが無  
 いように思えるのだ。しかし、わりとまとま  
 った良いクラスだとは思ふ。直感的に言うな  
 ら要するに普通のクラスだ。

まず、授業中の様子を書くと、例えば英語  
 ではどの列からあたるかでしばらくもめるの  
 は、他のクラスと変わりないだろうし、論社  
 とか地学では居限りや内職をする人がある事  
 も、これまた例によって例の如く、そして保  
 健ではその極地をゆくのでは? (たゞし男子  
 )しかし大体においてまともなようである。

ただ世界史の先生が毎時間居眠りをしてい  
 る生徒がいるといつて怒られたそうだ。

さて休憩時間の様子を書くと、トランプが  
 盛んなことぐらだろう。このクラスは4月  
 からトランプが盛んで、修学旅行をピークと  
 して現在まで続いている。飽くことを知らな  
 いのか、他にすることがないのか、とにかく  
 放課後までやっている人もいる。まさに粘り  
 とガン張りである。

書く事が無くなったので、この辺でこれ迄を振り返ってみる。まず、自治会祭―中庭において盆踊り。割と楽しかった。

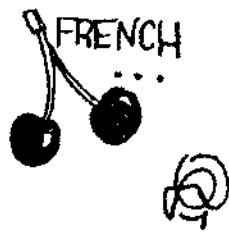
バレエボール大会―男子6人制学年2位  
遠足―赤目四十八滝

水泳大会―参加したことに意義がある。  
体育大会―全体として成績は芳しくなかったが決勝進出者も出たし、よく健闘した。  
コーラス大会―二次予選を通過。入賞ならず、三年の壁厚し（人数に於て）

文化祭―運動場にてグライダーを飛ばそうと試みる。あまりうまく飛ばず、果ては屋上から飛ばず（落とす）。しかし結果よりも努力したことが大切だ。

修学旅行―食べて寝て歩いて、トランプ。しかしクラスの友人と寝食を共にして面白かった。

以上のようなことだけれども、僕の文章がまずいため適確に書かれていないことをおわびします。



2 年 8 組

オレの名はハッチ。

オレには兄貴が26人と姉貴が19人、そしてオヤジが1人いる。その46人がどういう理由からか、毎日飽きもせず同じ部屋で集会を開いている。そして毎日、4人〜6人の親戚の人たちがその集会に顔を出している。集会は朝の点呼から始まる。

そのときオヤジは「万年筆のインキが減ってしかたがない。わかりますなあー。」とこぼしている。この男僧侶を捨ててオヤジ職に生きる。庶民の男、平野の男として、知っている人は全員が知っているほど有名なのだ。

兄貴や姉貴たちも、愛人揃いだ、親戚のおじさん達も同様のようだ。元気でピンピンしている時でも「ちょっとしんどいねー。」のおじさん。「帰ったらまず××。あとは家でやっておくように」と集会後の計画までを立ててくれるおじさん。「あっ？どこが字がまちがってますか」と心配そうに聞かれるおばさん。「直感」のおじさん等々。

兄貴たちと姉貴たちはわりに仲が良く、静かで穏やかな集団のようだ。

その静かさは、集会の後半に著しく現われる。オレはあんまり、じっと坐っているのが好きでない。ある時、大声で歌を歌ってやった。すると兄貴におこられた。さすが大手一人の熱心な修業態度だなあ、と思いきや、「うるさい、眠られへんやんか」……ふだんは静かな兄貴だだが、何か事があると豹変する。

春祭りでは大活劇「桃金太郎」を披露。オレは、台本と本番との相違の膨大さに、ただただ驚いた。

「バレエボールごっこ」「水泳ごっこ」「運動会」では、みんな勝つことよりも楽しむことにポイントを置いていたようだ。

一学期は「眠れる猫」だった兄貴たちも、二学期になってからは「目覚めた獅子」となった。何と言っても「大手前みんなで歌合戦」がそれを物語っている。きたない声でもたくさん集まればきれいに聞こえるのだろうか。第一次、第二次予選を軽くパスし、決勝戦でもなんと学年一位になったのだ。

秋祭りも大成功。文化的なお化け屋敷を一般公開した。失神寸前も名このお化け屋敷を設計した姉貴一名を含む、キヤー発生率100%の恐さで、オバケを演じたオレも恐かった。

兄貴たちは喜びのキャーを発声していた。

信州旅行では雨が降ってしまわったし、遠い親戚のおじさん達のきついお達しのため、不満顔の兄貴、姉貴達もいたが、みんなそれはそれなりに楽しんでたようだ。ガイドさんは、自他ともに認める学年一、かりそめの恋に陥った兄貴もいた。(運転手さんに恋した姉貴はいなかったらしい)東京タワーに感動した兄貴もいたし、寝そうになっている人を片っぱしからおこしていくことに喜びを覚えていた姉貴もいた。兄貴たちは風呂を占領して八組組歌(ひとつ〇〇)で始まるかぞえ歌を歌っていた。

「歌合戦」「秋祭り」以来「信州旅行」までノリッはなした兄貴姉貴たちも、それ以来穏和な状態をとりもどしたようだ。兄貴たちは「けまり大会」で二回戦敗退するし姉貴たちは「女子ラグビー大会」を「女子バスケット大会」と勘ちがいで、地下一回戦でおしまいになったのだ。

こんなけつたいな集団が好きだと言っておかなくては……

これで二年八組の紹介を終わるわけだが、学習成績に関することに触れなかったのは自明のことであるのだ。

## 2 年 9 組

向こうで兄貴の声が聞こえる。「おい、ハッチはよお茶をもってこんかあ。」「げえんどストープの火が、私の足許で赤々と燃えている。私は上着を脱いだ。考えてみるとはや季節は春。柔らかなった日ざしの中で、今は学級日誌をくり返し読んでいる。紙の汚れ、字の乱雑さ、一頁一頁に懐しさがこみ上げてくる。九組のこの一年間の出来事が頭の中を駆けめぐる。

「あかん、辞書に載ってるか。」黒田先生のいつもの口ぐせだ。先生のこの言葉もこの教室で聞くのも今日が最後。黒田先生は何事でも善に解釈なさる。生徒にも理解がうった方ではないかな。

学級日誌には、いろいろな事がつづられている。六月七日。この日は自治会祭か。そういえば「卑弥呼」は好評だったな。なんとなくこの日から、九組が一つになったような気もする。個性豊かな人間ばかりが集まったこの九組。バラバラなようでも何か一本気の通ったところもあった。文化祭はどうだったかな。前日まで、男の子が手伝わないって女の

子が泣いたんじゃないかな。フフ；何しろ男の子には悪いのがそろってたからなあ。それでも「黒田御殿」は大盛況、女の子には、苦労のかけがあったんじゃないかな。一番楽しい思い出の修学旅行。紅葉の軽井沢。湖の散歩。夜のだい自慢大会。8ミリにも映っていたっけ。バスの中では大合唱。お別れにバースガイドさんが泣いていたな。九組は本当にいいクラスだった……

思い起こせばきりが無い。授業中だってみんなかまわずに騒いだ。隣の女の子が期末テストにそなえて世界史の本を読んでいる。おみつ先生の授業も昨日の二時限が最後。あの先生には、ずいぶん迷惑をかけたっけ。でもそれだけに今ではあの先生の授業が懐かしい。「質問は、頭の中で暖めておいて下さい」か……。ハタ坊の持業が懐かしい。増山先生のも懐かしい。大谷先生のも井手センセのも。みんな良き思い出になっている。二一一番教室か。本館の二階の一番隅。みんなこの教室でワイワイ騒いだ。修学旅行のしおりも、体育大会の応援旗もこの教室で作った。二年九組のホームグラウンドだ。

春の日ざしを窓一杯に浴びてとっても暖かいだろう。ずい分とお世話になったね。



新しい年が始まると、君はまた新しい二年生のホームルームになるのかい。ちよつと

3 年 1 組

少し白けてきたのと保身のために、もう少しましな話を書きます。或る日、教室の後ろの黒板を見て美女が一人、「あ」と叫び、野

新しい仲間を見守る義務がある。僕たちもこの教室で騒いだことは忘れはしないよ。ストーブがとれて春の鳥がさえずるようになったら、窓を一杯に開けて、思いきり空気を吸ってごらん。そしたらきっと僕たちのかおりがするよ。その時には遠慮せず

三組程目立ちはないが着実に平均点を下げつつあり、他の三年生諸氏の精神面に多大な貢献をしている我がクラスの美女野獣共はその一方、同じ理由で教科担任の先生方を激怒させ、果てはあきれさせているといった二元性を持ち、自ずからその矛盾を増幅させることに専心しているのです。(国語の森先生すみません。どうぞ教師としての自信をなくさないで下さい。句点が少なすぎますね)

とと美女は初めて納得したような顔でコックリうなずきました。これまで、美女、野獣と書いて参りましたが、美女は13名、野獣34名。相方とも気はやさしくて力持ち。それかあらぬか、女子は、いや美女はバスケットボール大会一回戦で惨敗し野獣はサッカーボール大会決勝戦で惜敗したのです。悲し悲し今西方にゆるゆると赤く入る陽もこよなく悲し(赤光)かな：プー

学級日誌には、みんなの意見がのせられている。まじゆな論文もあればヒワイな小説もある。先生に見せれば、目をむくような絵もある。で、みんなが一行一行、一頁一頁心をこめてつづってきたこの日誌には、九組の素顔が記されている。三学期が終れば、この日誌はどうなるんだろう。だれかが持つていくくれるんだろうか。それとも、ポイントとゴミ箱にすてられるのかな。それもいいような気がする。その方が九組らしいかもしれない。私も最後にこの日誌に書いておこう。二度と見ることもないであろうこの日誌に。

アー賞おくれ)

の松田有弘先生(前述の「掃除サボルナ」参

照)で計48人居るはずなのですが、何故か理由はよくわからないけれど未だその姿を見せていない(休学中の)野獣が一人と、眠い眠いとうそぶきつつ、たまにしか出てこない美女(実は僕ちゃん)一人がその中に含まれているので、一定していません。まあ、そういう訳で教員室の混乱の原因は全て三年一組に帰するという、我々にとってホコリ高く嬉しく迷惑な噂も、万更偽りでもなさそうなのです。どちらかというと、真実だと言う人の方が多いのですが。

後輩諸氏よ、我らを見習うなかれ!

### 3 年 2 組

「この一年をふり返ってみると、忘れようとしても思い出せないのが、あの異常なシヨイをやった自治会祭。暮あけ前は、桜田淳子のワンマンシヨイに終るかとも懸念されたが、いざふたをあけてみると、みんな理性も教養もかなぐり捨てて熱演した。(今になって気づいたが、あれが真の姿だった。)

(それ以後、テストのたびに、平均点などはるかかなたにさしおいて、学年最低をひたすら走り続けてきた。巻のうわさでは、現

役合格者数ジエロも夢ではないという。しかし、他のクラスより抜きんでて浮わっているのは事実だが、常にこの不動の地位を保っているのはひとえに自治会祭のせいであり、その全責任はあのシヨイの発案者にあるのだれも思わないのは幸いである。

それでは、何もかも学年最低であるかというところではなく、遅刻と欠席の数は学年最高である。ところが、この二組においてでも、掃除だけは担任の熱意とその側用人である万年厚生委員の涙ぐましい努力によって、みんな一生懸命にするようになった。(とスプリングには書いておこう。)

これだけ書くと、何のとりえもないクラスかと思われられるかもしれないが、劣等感と、あきらめからくる心のゆとりはクラス全体に明るいムードをかもし出している。○君が、某コンツェルンの令嬢に恋をしたので五一人連れだつてわざわざ彼女のお店まで某食品を買いに行くというのも、二組ならではのほのぼのとしたできごとである。その結果はどうなつた? もちろん、その品の売り上げが、五百円ほどふえただけ。このように、この一年間に、かなわぬ恋に泣く者多

数。その逆少々。うらやましいけど泣くものか。おれは強い子だ!! (この部分、作者の感情の高まりが頂点に達したことを読みとってほしい。)

こゝで冷静になって我がクラスの自身をのぞいてみよう。成績こそよくはないが、(それが致命的)決して、しらけた、無気力なクラスではない。十数名のスペシャリストたちは、コーラス大会において、血のにじむような努力の結果、三組、七組と合同でみごと全校優勝を成し遂げた。水泳大会でも体育大会でも、超人達の活躍と、棄権者の代役による参加点で、惨敗を免かれた。このように、一致団結とはいかないにしても、にぎやかなわりには、よくまとまっているクラスなのである。他のクラスで相手にされないのが自然と連帯感がわくのだという見方もあるが、単なる劣等生の集団では決してないのだということを強調しておきたい。

最後まで、まとまりのない文章だったが、なにぶん、アチーブの二日前に、某歌手のシヨイを見に行つて、アチーブの結果が惨敗だったと嘆くような人物が書いたので、その点はお許し願いたい。では、二組全員の健闘を祈つて筆をおくことにする。

3 年 3 組

チヨチヨン ガ チヨン

チヨチヨン ガ チヨン

あ どっこい!

出そーで 出ない

出そーで 出ない それ!

(三〇三俗語より)

三〇三教室には才色兼備の殿方が勢揃い。そのピンキーなこと、強がしいこと。自治会祭の恐怖の迷路、体育大会応援の部最優秀のあのクラス、あのムードと言えば、即おわかりでしょう? 授業中とて同じこと。リーダーのM先生の力説も空しく、Mannerのほとくの昔にアンシアン・レジームと化しました。出て行ケツは公用ギャグ。まあ恐るべき子供たち! 神よ許し給へ。先生ごめんなさい。ぼくたち、ちゃんと反省会も開いたんです。でもねえ、このエネルギー、我慢できないワ(なにせ、先の実力の上位50人中23人が三組キヤートルズ一家という神話、今職員室では熱く囁かれています(笑))

三組ハナンヤ! 懸遠隊キナイカ!!

三組ノ男ノコツテ カツニエエネエ!

どっちも否定できません。とにかく、このホットなる族にふり廻されても族は泣いてきました(本校においては、実に珍奇な現象)が、恨みつらみはあるものの四月来、共に学校生活を送るうち、隊長F氏の意外なやさしさ、会長A氏の細かな心遣い等々、個々の隠されたみ方には抗しきれず、だめねえ女のこ

3 年 4 組

つて! 一見ヤケクソの奥にあるナイーブな心などというのは、大それた幻影かもしれませんが、信じてみたい。砂塵の中をサッカーにうち興じる諸氏を拜見しておりますと、少年というには憎々しく、さりとして青年と呼ぶにはあまりに脆弱で、両者の過渡期のこれれもの! ちょうど、冬から春へのあの微妙な季節の織りなす波乱万丈の幻こそが、我が三年三組の実体ではないかと、ふとそんな気もするこのごろなのだ。一〇〇ギョーザ食イニ行ケヘンカ。女ニトツテ母来必要不可欠ナコトヲ: : Fさんのいけず!

港を出たのは春。桜そよがす風受けて、いっぱいにくらむ帆。九十四の瞳は我ががクルー、片山提督たてまつる。やって来ました自治会祭。表向きには喫茶店。その名も名づけてアノレサロ。水蓮ぶむくつけき男どもの顔と顔。ホストクラブのつもりの者、ゲイバー気散りの者もあり。試験もすんだ夏の日はまだ毎日の補習々々朝も早よから世界史聞きにやって来たのは四組ばかり。朝いちばんの中庭の蛙の水に遊び込む音。まだこちよい陽の光、涼しいそよ風も髪をやさしくそよがせた。

でももういいの。三組万才! ニセオオカミたち、ニセ赤頭巾ちゃんたちに栄光あれ!

文化祭。青天の霹靂。土器を作るはいけれど、ロクロもなければ土もなし、天才ありて大活躍。バラした自転車三台分。みごと回った大歓声。物理研究室に木製する四組の名声。ファイア四んで歌う声。炎を映したみんなの瞳。なぜか悲しくなってきたみだには

以上 官庁街のシラムと濫名される本校の文化面でのシラム化が噂される今日、外蘭を憚って抽象的表現に徹しました。あき足らず

ほをぬらす人。空にきらめく木星の光もにじんで見えなかつた。

ヒラシヨック。彼の愛。みんなを包む大きな愛。たとえ我が身はよれても。わからない人は多かつたけど、彼はけつして鬼じゃない。ただ純粹に愛してくれただけ。あまりに愛しすぎただけ。

つきぬ思いはめぐるけど、過ぎた日々は帰らない。筆者の駄文はこのへんにして以下は各人のメッセージ。

思いやりのある心を大事に！  
人間よ 汝 微笑と涙との間の振り  
青春は美わし そはもはや来たらず  
撃ちてしまわむ！  
木内一喜

最後までもしつこく生きぬいてやる！  
邂逅 この不思議なる人生 阪越信雄  
これからは生活態度を改めよう  
たかがぼくの人生 ただ生ける者 栄田  
今をふり返れ そして今を生きよ ロパン

星のように急がないでしかも休まないで京子  
花びらの蔭から涙が私を見ているんです圭子  
どんちゅうりめんばあ 二松  
アアア ムチャムチャ 火羅背三年！ 塚田  
絶望の前衛 あとはもう旅しかない 安積  
生まれてこなかつた男 端

虚にいて実を行なう

野口英世・野口五郎 キャー 野口康博  
晴れば、カンカン照り！ 気象庁—— 川本  
できるだけ清く、正しく、うつくしく 宇の  
冬授業ストロブ憎し row.a.boat 白原  
卒業後も忘れずに 山下  
片山先生はっかり三年間 浅岡

ああこのような事が表現できようか 牟田口  
卯の川に 風雲起る 淀の秋 山田  
オオテマエ狂師ともサイナラざまある//理

さらば明習君！ 土佐堀で会おう 西沢  
先生さようなら、みなさんさようなら 中村  
白いボールと泥にまみれた青春背番号1上田  
サクラハカオリ サクラハチッタ ミズタニ

森田既放遊於浪人行吟鞍台顔色憔悴形容枯槁  
みんなで列島改造に再挑戦しよう！ 永長  
ああぼくには芥川の悩みがわからない 田中  
俺は愛を捨て勉強に勤み風と共に散る 山根

やっぱりの事だけは言わずにおこう 小嶋  
再来の人生の勝利に向かってさあ出陣 山岡  
もしも、3年4組に私がいなかったら 郁子  
とげのある真紅の大きなバラが好き 原満良  
旅愁ひと夏の経験夏の感情さらば友よ 島田  
木の葉は散り今は別れるべき時だ 中川盛善  
聖僧でさえありえなかつた 満智子

逸子 今日の日はさようならまた逢う日まで 咲子

いつまでも明かるく、やさしい心を 淀善英  
初恋に恋した楽しい思い出 さようなら文字  
万物の霊長たる人間の霊長となれ//中川敬三  
もっと強い人間になりたかつた のぶこ

山下 一九九九年まではかない命を大切に 明尚  
浅岡 環境のあわたししさの中でふと我に返る石村

三年五組は典型的な理科系クラスだった。  
先生方への受けはともかく「文化(科)的」  
な事は皆目。あれは文化祭コーラス大会のこ  
ろ、各クラス交渉の末、合併話がまとまると

五組だけ取り残されてしまった。あわてて、  
学年会議を招集(五組は音楽選択なし、しか  
も女子は十三名 故に単独では、予選通過は  
おろか、参加さえ危ぶまれた)実力テスト

前だというのに、延べ10数時間、5回にわた  
った首脳会議を経て、混乱と悪意と嫌悪の内  
に、五、八、九組連合が成立。(8、9組は  
単独参加の内定だった)。しかし、練習と  
なると、五組は最高の出席率。大いに貢献し  
たが、8、9組は文化祭に参加したので、結  
果は惨敗の3位であった。が、以前の自治会

祭では、仮装行列を2年ぶりに行い、狼男（も平均を大きく上回った。平師は、御存じは実娘）、ドラキユラなどの他に、大担任、r大居前。近ごろ（12月）師はひどく我々に

浅野師を以って、長浪歌に名高い玄宗皇帝と優しい。卒業式が近いせいである。

し、万雷の拍手をその替れとした、また、ラ他クラスなど何度となく平ショックを受け

クダの○○○をはいた男をポリスが追った、たり、「出てケー？」の蒙声を受けて犠牲者

「ストリートキング」や「ブルースリー」の企を多くだしたのだが、五組は不思議に損害軽

画はなかなかのものだったか。本来、五組は微のみならず、○、○組に於て度々五組の自

運動系クラブの野郎が多く、スポーツ大会に擾話をされ、この文科系の2クラスに口惜き

は抜群のはずだったのだが、バレー大会で9思いをさせたそう。又、師はリーダーのテ

人制がチャンピオンシップを握った他は、水ストを返される時、しばしば担任浅野師と席

泳、体育、サッカー（クラブのメンバーが2を同じくした故、五組人民は氣力を奮いたた

人もいたのに）、バスケットと去年の8月のせざるをえなかった。そう、五組の本領は勉

阪神タイガースの如く、連敗を重ねた。が、学にあつたのか。平師は五組を「ドンダリの

「もののおはれ」を知る人なら、体育祭でのせいくらべだが、縦に長い」と言われた事が

あの三枚のクラス旗（内、一枚は論理規定にある。これが五組を最もよく表しているの

融れた）、特に「浅野工匠守」と体育祭競はないか。その方面にかけては全クラス一

技の「平上野介」を覚えておいでであろう。して行動するのが、他のクラスから見ると驚

内容は、かつての各部の勇者達の榮譽のた異だったんだ。

めに特に省く事とする）。ここで担任、浅野それにしても文才のな

師と平師の紹介。浅野先生は世界史の大オウイクラスではないだろ

ソリテイー。先生の補習には五組人民大いにうか。文章が乱れてい

感謝するともに少々悩まされた。つまり人るのも、的をはずれて

気がありすぎて、常に満員御礼。夏休みなどいるのも、僕が5組で

金魚鉢に百名以上（かなり文科系が浸入）がはいるのも、僕が5組で

入って大変だった。浅野世界史は実力の点ではないせいなんだ。

3 年 6 組

本来ならば、この欄をお借り致しまして、

「福川正義氏」その金脈と人脈一を発表す

るはずでしたが、私も三年になって退学する

のはいやな故、割愛しまして、我が三平六組

の御紹介と祠成ります。

バレーボール大会男子6人制をして、サッ

カー大会も優勝、あとは知らん。自治会祭、

風上げと言おうか、風上がらずと言おうか、

文化祭、不参加。サボル者多し。コーラス大

会、男子の参加者三名（勿論筆者を含まず）

定期考査、女子の偉大さにびっくり。実力

テスト、女子のモレツさにびっくり。なん

せ、一年、二年と下位クラスにいた筆者なん

ぞ、結果が発表されるたびに、びっくりしと

ったけんのう。

かといつて、皆さん勉強だけに燃えていた

のではありません。席がえに清熱を燃やした

女の子達。一学期の遠足の時から、写真を撮

りまくり、担任から「写真屋はん」の名誉称

号を奉られた男。議會さえあれば女の子に話

しかけていた男（必ずしも生徒にあらず）

予習していない者の救いの神となった質問常習

4w lim  
SIN f dx  
COS Δd  
15 Δt  
∞ Δt

者三名、自らのイビキで目を覚ます睡眠魔。何の因果か皆が (ア)内職 (イ)睡眠 (ハ)興奮する政経の時間に、必死に授業を聞いていた男の子。昼休みはキャッチボールに狂い、五時間目に昼寝していたグループ：：等々。人それぞれに自分のしたいことをしていたようで、その意味では良いクラスだったのでしよう。(と思うのですが：： はなはだ自信のない事 (イ)平瀬 (ロ)稲川 (ハ)香川) 先生の数学の如し)

こゝで一服。読者も休まれたし。

遠足の事を書こう。我がクラスのそれは、例の「写真屋はん」の活躍もさることながら生徒をひっぱりまわし、疲れさせた担任の行動によって特色づけられるだろう。(筆者の上級の和訳の文みたい)。特に二学期の遠足では (イ)七 (ロ)十 (ハ)大林) 組といっしょにいけなかった男が怒っておったのだ。(なんぞ? 知らん!)

文のつづきぐあいがおかしいのですが、なぜかカッブルの話に移ります。担任の(カッブル・大宇不合格論)にもかわらず、頑張るお方がチラホラ。でも他人の花は赤いとやらで、クラス内でのそれはあったような、な

かったような? とにかく実際にとりの花

が赤かった。(ここは六組してみると：：ムム!!)人もおられたようで、ハイ、これ以上書くと都合が悪いのでヤメ。ついでにクラス紹介もここでヤメ。最後に (イ)松田 (ロ)近松 (ハ)大川) 先生に一言・カライテレのCMを、発音、ダメだね」オンマイ。

### 3 年 7 組

短いものとは覚悟していましたが、本当にあつと言う間に一年が過ぎようとしています。クラスに益を為すというよりは、害を為して来た私にとつて、悔やまれる一年です。

クラスには、個性のある人物はたくさんいますが、リーダー(煽動家?)がいないせいか、また、クラスが、二年生のときのあちこちのクラスからの寄せ集めであるせいでしょうか。お互い、気心が知れ合うのに一年を費してしまい、みんなで何かを創ろうというま

ラスの大半が書道を選択しているせいでしょうか。今でも、実際は、止まぬお喋りでざわ

ついているにもかかわらず、この静かな、気を感じます。クラスには、おおよそ、強制力もなければ、束縛もありません。好き勝手なことをしようとも咎められないかもしれせん。この雰囲気には、寛容と冷淡を感じます。強い者、精神的にゆとりのある者、自分が、今、何をすべきかよく心得ている者にとつて、このクラスほど居心地の良い所はないのではないのでしょうか。これに反して、私のように、言ってみれば、大きな渦の中であつて、ぶついている者にとつて、クラスは、放任されたドラ息子に感じるような冷たさを持つているように感じられます。しかし、冷たさと言つても、「ふん、あいつ、またあんなバカなことをやっている。ほっとけ、ほっとけ」というような批判的な考え方からくるのではなく、「あいつには、あいつの考え方があつてあんなことをしているんだ」という寛容が、あるいは冷淡に感じられるのです。それに、自分の考え方がはっきり正しいものだと信じられない。ましてや人にどうこう言えるものでもない。そんな雰囲気があるように思える。

それ故に、〃後にも先にもない高校三年という一年間であるのなら、クラスみんなで、

3 年 8 組

とによって、無限に拡大した。その拡大のプロセスにおいては、誰が何をもってしても抑えることはできなかった。このこと故か、

いい思い出を心に残すことが、この上なくすばらしいことである〃という事は、今思えば

森羅万象の中を、地図を見ながら、道を尋ねながら我々の「戦車隊」は軍を進めた。それは、決して楽な行軍ではなかった。内部は

我クラスは、三年生の各組より「気違い扱され」異端の目で見られたこともしばしばだった。が、我々はそれを懸念しはしなかった。

事に参加するよりは、〃云々。〃というような浅はかな考え方を許さないような雰囲気、

銅壁によって遮蔽され、一基の潜望鏡が唯一の外部との接点であった。我々が各個に乗り込んだ戦車は、互いに何ら通信手段を持たな

読者の中には、覚えておられる方もあるだろう。あの自治会祭での時代劇を。裏を明かせば、あれを演じるに当っては、全員、当日まで非常に不安であった。しかし、案ずるに及ばぬ。本番では、リハーサルを遙かに上回る出来だった。思わぬ所でギャグは出るし、ミスも転じて笑い呼んだ。この実力は、文化祭での「修善寺物語」の時にも十二分に発揮された。読者も記憶に新しいことであろう。

クラスに出来なかったことが悔やまれます。私が、この理を避奉できなかっただけでなく

かかった。しかし、四月当初、まるで蜘蛛の子を散らすかの様に発進した我々は、6月の自治会祭で早くも進む方向を伺じくし、9・10月の体育祭・文化祭で遂に一個の軍団と呼び得る集団に成長した。のみならず、自らの手で通信機器を編み出すに至ったのである。なるほど、我々は、銅壁に囲まれた「井戸の中の蛙」でしかないのかも知れぬ。しかし、不当な外圧に断固として抵抗してきたことも曲げられぬ事実である。我ら3年8組は、マンネリズムの花咲く大手前であって、常に例外的存在であった。これは、大手前の常識を外れた型破りな人間の集合体であったことだけが原因ではなからう。44名全員の会するとこ

るには、決して解明できぬある種のパワーが生じた。このパワーは、共通の目的を持つこ

とき、さらには、クラスの連中が、みんな、いい奴ばかりだということが、わかってきたこの頃に到っては、なおさら悔やまれてなりません。

もう一度この一年間をやり直せたらと、つくづく思います。(春夢想)

利益を計算に入れぬバイタリテイの発散こそが、我々の青春である。この精神は、我々が青春と呼べる何かを維持する限り、持ち続

白い指をくみながらうつむいていた友その美しい横顔姉のようにしたいいつまでも変らずにと願った幸せ

テニスコート キャンプファイヤ

懐しい日は返らず

すばらしいあの頃 学生時代

過去に前例があったであろうか?

＊ ＊ ＊

けるであろう。まもなく我々は解散を強いられる。中には、大阪を遠く離れて生を営む者もあるに違いない。しかし、必ずや再び大手前のこの校舎のこの教室に立って、過去の幻影に身を没そう。3年8組の面々の顔を忘れることなく。

(Y・T)

米あ米し米あ米と米

6月 自治会祭において「大輿(大)絵巻」を上演。好評を得ず

を上演。好評を得ず

バレーボール大会で全種目、12回

戦で敗退、不振

9月 水泳大会でまたも不振

体育祭において、校内最低得点記録を樹立。脚光を浴びる。

10月 文化祭で「修善寺物語」を上演

大成功を修める。

コーラス大会

で、5・9組

と組んで健闘

校内第三位。

11月 バスケットボール大会において

女子が全校優勝を

達成。

やったあ。



我が三年九組は、「大手前にその部屋あり」と知られる三〇九番教室。通称「金魚鉢」にある。女子二六名、男子一八名、担任藤延朝、京部三条の喫茶「ヒラ」の前の路上で決定されたものである。

大学区制最後の大手前生。現行課程最後の受験を迎える高三生というわけだから、一心不乱に勉強に励み、クラスとしてのまとまりなど無いだろうと思われるだろうが、我がクラスは、はびやいだというか、ホンワカというか暖い雰囲気包まっていた。その結果、後半に詳述するような偉大な業績を生み出したため、一般に学業の方はダメか、と思われたが、それをくつがえすような現象もついに起こってこない。

三年生として御多分に漏れず、出席簿はかなり汚れているが、今まで遅刻・早退・欠席ゼロの日が二日ある。それは、卒業アルバムの日と、文化祭前日である。あれは九月のことだったが、同志社大学英文科四回生の佳人、神藤雅子女士が教生として、二週間本校にいらっしやう。

彼女は、他のクラスにはほとんど行かず、専ら九組で「教育実習」をなさった。そして文化祭に、真紅の薔薇の花束を抱えて、我々の楽屋を訪れて下さったのはなつかしい思い出だ。ところで、この原稿は三人の分業でなされている。この構成は、早や春の遠足の日の朝、京都三条の喫茶「ヒラ」の前の路上で決定されたものである。

三年九組の「自治会祭」「文化祭」の成功は、少なくとも私の在学した三年間で群を抜いていた。我が九組の栄誉はここに止まる。自治会祭は初夏六月七日、我々は「アップダウンクイズ」を演出した。出場は、平、片山、福川、平瀬、小松、香川、藤諸氏。(守部は略)また浜中学校長も特別出演。企画の優秀性はその「目で見るクイズ」「ボイスクイズ」

ゴンドラを擬した大きな似顔絵の昇降の妙等にも見ることはできるが、その本質は教師連と本校の大部分の生徒が、ごくナチュラルな形で一時を楽しんだ事にあるだろう。講堂のあれ程の熱気は、我々自身にとっても驚異だった。又文化系たる九組は、その後の各種のスポーツ大会、惨敗の体育大会を耐え忍び、文化祭で再起を期した。企画は「シリウス劇」と「アップダウンクイズの並流」の2種が対立し、何回かのO.M.M.会議で「シリウス劇」



と決定し、最終的に「ひかりごけ」の上演が批准された。「ひかりごけ」は（人間を食べる）というショッキングなテーマを持ちながらの長文の原作から、担当2名各々徹夜の未脱稿、三日めには台本50部を印刷した。同時に出演陣八名の練習が始まり、大道具は三〇㎡にも及ぶ洞窟壁を作り、宣伝班は十数枚のポスターと七〇〇枚のピラを作成、音楽効果班、衣装小道具班も不気味な戦時ムードをかもしだした。前日には四限中三限練習を繰り返した故あって、当日は大盛況であり、何よりヤジられなかった。明らかに文化祭ベストワンであり、方言に悩んだ出演陣以下全員の労は報われた。須らく新一年生は九組を範とされたい。

（江化）

なにはともあれ、一年は過ぎた。同志よ。

さらばじゃ。歓喜雀躍、今、春の日なり。



詩

白山

奥野 寧子

彼はその白い山を見た  
あとからあとから湧き出る涙を  
惜しまず頬に伝わせながら  
一歩一歩頂上に向かった

山は以前 萌え黄色に輝いていた  
そして 彼は一人ではなかった  
多くの友人がいた。多くの愛する人がいた  
足どりさえも 今よりずっと軽やかで  
頂上は近かった

笑いさざめいていた 怒っていた  
憂えていた 歓喜に満ちていた  
彼の足跡はこんなにもこの道にいくい込んで行  
きはしなかった

彼は足跡を消すために故意に吹雪の日を選ん  
だ  
あまりに深い暗い足跡を 吹雪が消してくれ  
ることを思っ

あの頃の彼と 彼の周囲の人たちは  
登ってきた道のりをいちいち確かめ  
そしてまた 頂上に向かった  
それは振り返るごとにその展望を広げていた

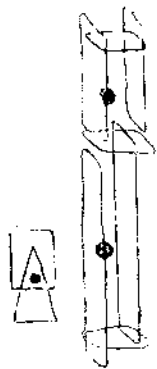
振り向くことは厳禁だと  
彼は自分に言いかけた

背後は単なる白い広がりだとは限らないのだ  
しかし、その意志に反して 彼は振り向かざるを得なかった

彼は振り返り 背後のあまりに惨めな視界に  
顔をしかめた

― 次の瞬間

彼はもう白い山のふもとにいた  
再び彼は一歩一歩頂上に向かった  
暗闇に白い斑点が数えきれない斜線を描く  
もはや彼の前方は一歩先も見通せない



# 先生紹介

## 井上信子先生

「H・R始めまアース。毎朝八時三十分、さわやかな(?) 一声が我らが三〇八教室の隅々にまで響き渡り、信子先生の御登場。さて、この信子先生。年令は二十才とチョット。大手前高校の中で数少ない若手女性教師のひとり。なかなか手ごわいですゾ。

問題その一 いったい彼女は独身でありましょうか? お答えしますー彼女はまだうら若き乙女であり、正解は独身。(我と思わん男性諸君 チャンスは残されている?)

先生は若さに満ちあふれ、なかなかの美ぼうの持ち主。いつも満面に優しそうな微笑をたたえ(そんなエエモンヤロカ? ハイ、ソウデス) 気軽に話しかけられるおねえちゃんのような存在でいらっしやるのである。

先生の担当は「英語」でその授業は非常に理解しやすいかわりにまたきびしい。テストの多いことでも有名で、毎時間の Review Questions などなどで我ら一同泣かされているのである。内職好きのしれ者どもには、「こらー!!」と、あのか弱そうなお身体のいったいどこから発せられるのかと思われれるほど、野性的(?)

井上先生 桑原先生 田中先生 庭野先生  
平口先生 増山先生 村岡先生 森先生  
食堂のマスター氏

失礼) な素晴らしい美声がとんで行くのである。

しかし、それも皆生徒の向上を一心に願っておられるからであって、先生の「教師としての意欲」は相当なものである。

またこの先生、なかなか可愛らしいところを持ち合わせていらっしやる。十一月にクラスで飯盒炊さんに行ったときなど、我々といっしょに「探偵ごっこ」をして、盗人になって一番はしゃぎまわっていらっしやうたご様子。すぐに童心へもどる素質の備わった先生である。根が純情なのか、若しくは単純でいらっしやるのか、筆者の大変悩んでおるところなのである。

とにかく担任として我一年三組をはじめ受けてもつという信子先生は、生徒とのつながりを真剣に真面目に考えておられ、やる気充分な「ハッスルティーチャー」でいらっしやるのである。

## 桑原 啓 先生

クワバラ先生は、とにかくいい先生なのです。ホントに優しい先生なのです。クワバラ先生は、僕達のH・R担任で化学を教えてください。ホントに温和な性格でいらっしやるのです。それ故に、先生のまわりは、いつもポカポカなのです。まぶしいくらいなのです? 先生の授業はとてもききやすいのです。みんなが、

わかるまで教えて下さるのです。そして、余り奮激されません。授業中、僕達は何やら、さわいでおりますと、つかつかと歩み寄ってこられて、おだやかに注意されます。又、全体的にやかましい時には、手を顔のところでお合わせられて、優しく「静かにしなさいよ」と叫ばれます。それに、先生は、とても器用でいらっしやるのです。生徒達が黒板の字を写しやすいい様に、両手にチョークを使いわけられるのです。両方ともとてもお上手なのは驚きます。

それから、先生はとても、きれいな音です。黒板が少しでもきたないと、必ずふかれるのです。そのふいた黒板ふきは、決してそのままにされません。必ず、スイッチを入れて、ギューンという音をたてて、その黒板ふきをきれいにされるのです。そのたまった粉もちゃんとごみ箱へ捨てられるのです。そして、ゴミも……こればかりがいます。僕等に「捨てなさい」といわれるのです。でも、こんな先生が僕達は好きなんです。何か全然わかりませんが、読者にこの記事が理解できるでしょうか。筆者はいつかこうに理解できません。理解できないついでに、もう一つ、今度は、僕達にとって先生のいやな点です。それは、先生と僕達との世代の差がありすぎるからでしょうか。それとも真面目でいらっしやるせいでしょうか。僕達の心を理解していただけないことがたびたびあります。学校の行事の後は二次会でもしてさわぎたいのに「りりり行ったらあかんよ」とか「あぶないからすぐに帰りなさい。」とか言われるのです。僕達にはそれが、とてもナンセンスに聞こえるのです。まあこれは僕達が先生の心を理解していかないのかもしれないませんが、まあその点をのぞけば、先生はとにかく、優しく、つきあいやすい人です。そして、妻のわりに？たいへんお若いからいらっしやるのです。遠足の時で

も、ある女の子のカバンをもってあげられたり……以上先生についていろいろ書いてきましたが、もうこのへんで筆をおきます。

## 田中 敏 先生

先生の名はVINと読む。今だからって……と読んで読んだ者はいない。誰もが、VINと呼ぶ。あえて、他の名をさがせば、ハリキリボーイ……と言うのがある。そして他の一部の女生徒には淡いあこがれをもつものもある。……まさか……とか……そんなのあるわけない……と言われる人たちはこの事実を知らない人たちである。

今年、五月二十三日は先生の結婚式……といううわさが流れた。本当のところは、庭野先生が、女生徒をかついだのである……しかし、二三年では、特に女子更衣室では、そのうわさでもちきりだった。

そして……数人の三年生の女生徒は、個人的に、そのうわさの真偽を確かめに行ったということである。

今日も、またもや女子更衣室で、先生のことを耳にした。

「あの先生、家は茨木やわねって」「それでいつも朝早いのか、でもお弁当、どうしはるのやろ。奥さんいはいれへんし」「おかあさんも去年なくなりったし」

このお弁当問題に答えよう。もちろん独身である。……独身三羽ガラスの一人である。（これは田中・中村・高山各先生に送られた称号である）すると誰が作られるのか。さっするに、先生の義姉さんが作られると思うのだが。その兄夫婦が先生に言わしめたことばをかいておこう。これは四十八年度六月発行のコギトにのっていたことばである。新しい先生紹介 ⑧今一番したいことは何ですか。

結婚って書けばおかしいでしょうか。要するに、先生の兄夫婦は仲がすごくいいのである。

次に、先生の授業について述べなくてはならない。先生は体育の教師である。高校の時から、体育の教師が英語の教師になりたかったとかで、そこいらのデモンカ教師々とはちよつと違う。そして保健体育の時は、一時間に一言でも、一人でも、聞いてくれればいいというつもりで、授業をなさるそうである。しかしその真偽は確かでない。次に体育の授業にうつる。先生のお得意に「グリコ」という体操がある。その名のとおり、一粒<sup>300</sup>のポーズである。整理体操もおしまいになると「ハイグリコ」と、勢のよいかげ声とともにその体操ははじまるのである。それから、授業を受けるものは気を引きしめてかからねばならない。先生が好んで使うことばに「気合を入れて行け」というのがあるからである。先生は時間中、そればかり言っているのではあるまいか。

しかしその結果、2年4組において「入気合行（にゆうつきあいこう）」という新語が登場した。ちよつとしたギャグになりつつある。

最後に、先生のある一面を紹介しておこう。先生はいまだに現役の陸上選手であり、朝はマラソンをかかさないそうである。そしてそのコースは、先生の初恋の人の家の前を通っているという。

もちろんもう、よその奥さんになった人の。



## 庭野 孝夫 先生

庭野先生……。筆者は原稿用紙を前にウーンとうなってしまうのです。とにかく先生を知らない方はいらっしやらないだろうと思っております。いや、それどころかあのどなり声を聞いたとか、直撃をうけたとかいう方も少なくはないでしょう。（かく言う筆者もその中の一人なのです）あるいはおそれ多くて顔むけのできない方は校舎のかげに身をひそめたことでしょうか。（これは筆者の経験からのことだけではないと確信しています。）なにしろこわい先生なのです。そうなんです。あの恐ろしい体研のお仲間のお一人なんです。数年前までは学校中で一番若くかつ女生徒の人気を集めていらっしやったとか……。今では二人のお子さんのやさしきおとうちやんだそうです……。

体育の授業では男子の方々はかなりしごかれていたでしょうし、保健は「ン？イーカナ？」とのんびりするようです。（筆者は運よく……イヤイヤ運悪く……先生の授業にあたったことがないものであまりよくわからないのです）

検尿を忘れた方はお家まで走られたでしょう。人に迷惑のかかることなどにはなかなかきびしいのです。

そして先生はバスケット部のおそろしくもおやさしい？顧問なのです。バスケット部の方々は男子といわず女子といわず、体育館といわず運動場といわず、「バカヤロウ！ナニヤツテンダ！」とずいぶんやられてるようです。かと思えばみんなの中にまじってバスケットボールを楽しんだり……。それでもみなさん先生にひたすら

ついていく、そんな先生でもあるのです。バスケットの審判で幾度となくテレビ出演もなされています。一度ごらん下さい。あのカッコイイ？お姿が拝見出来ますよ。(とにかく先生ほど熱心にクラブの練習をみてくださる先生は少ないのではないかと筆者は感じました)と、ここまでまとまりのつかない文で進んではきたのですが、今さら紹介もなしでしょう。(もうこの辺でやめないと先生のあのおこった顔やニタッと笑った顔が筆者の頭の中にいつまでも居すわりそうですから：)

きょうもまたこっぴどくやられた方、まあまあそう顔をしかめずには……。バスケット部の方にでもなぐさめておもらいなさい。とにかく、かみなりには気をつけましょう！

## 平口幸男 先生

三十分のベルに間に合う、最後の列車で来たにもかかわらず、時々先生が前を歩いていらっしやる事がある。先生を発見した者は勿論セーフであるが、それに遅れると、英語の授業で集中攻撃を受けるのである。遅刻で思い出したが、去る十一月十五日の寒い朝の事であった。男子がサッカー大会のため練習で、ホームルームに遅れると、それまで積もっていた怒りが、突然爆発したのである。通常先生は、生徒に対してあまり怒りの言葉が発せられない。ぐっとこらえていられるそうであるが、あの時だけはまったく露いた。

先生の英語の発音は、生徒の間ではとても好評である。(自分の発音に倅ってしまわれる先生もおられる中で)先生は、伝統のキンクス・イングリッシュで話されるのです。そしてまた、授業ではえ

こひいきのないよう、出席番号指名制でランダム式に当ててゆかれ。それゆえ、教科書の該当ページ及び行数と同じナンバーの人は覚悟しなければならぬのである。もっとも、例の遅刻者と、どういう訳か庶務委員だけは、先生の質問の恰好の標的となるのである。そして、難解な箇所当たると、丁寧に具体例を挙げて、時として「オレなんかイ！」と懐旧の情を交えて、学生時代の思い出話などもおっしゃるのです。それで、我々も「そうかにイ」と納得するのである。(思うに、こんな所は先生と仲好しの数学科のP先生とK氏のEMBU)なのである)

ところで、先生が柔道マンであった事を、皆さんご存知であろうか。大学在学中などは、あの体で大きな相手をバタバタと投げ倒し、投げ込みが災いして、第一線を退かれたとか!? それで、現在は卓球部の顧問として、その抜群の才能を発揮しておられるのである。新入生の方は、放課後、講堂をのぞいてごらん下さい。あの独特の、スタイルの良いスポーツウェアですぐわかるでしょう。(誉め過ぎのような気がするけど)

こないだ先生にも、男生徒には少々不満がある。それは、先生の写真好きに関してであるが、(宛の方は、かのP先生も賞讃されたが)写っているのは女子ばかり。男子のを探するのは一苦労とか。この点については、体育大会、修学旅行を見れば明らかであろう。

以上、支離滅裂な文となってしまうが、本音をはくと次のようなことだと思おうのである。「平口先生は、習ってみないと判らないが、習っても判らない人がいる」何を隠そう、それは筆者である。



## 増山和夫 先生

私達は、人をうわべだけで判断し、本当のその人を知らうとしないでいることがしばしばあります。その最も身近な例が増山先生の場合なのです。

先生は、その異常なまでの教育熱心と生徒の能力をはるかに上回る英単語の羅列（まさに羅列）とによって、我々の間では、最も恐れられている先生の一人に数えられているのです。ところが、これは大きな誤りなのであります。先生の本来の姿は博學多才、仁厚く義を重んじ、礼をふまえ、智に長け、古今東西のあらゆる書物に通じ、その知識の及ぶところ、古くはアウストラロピテクスアフリカヌスより新しくは相対性理論、核融合、その他、とあらゆる分野において先生に並ぶ者ナシと言われ、諸外国に招かれること数百度に及ぶという、まさに日本の誇り、日本のエース、仲様なのです。これは先生の授業を受けた人にはわかるでしょうが、先生のあの聡明さをもの語る広い額、毛の薄くなってきた頭、知的で何物をも見通すような目からも万人の納得のいくところなのです。

先生が故意に、生徒に憎まれるような行爲をおとりになるのも、当然のことながら、おろかな私達を発奮させ、少しでもコンポへの意欲を出させようとする苦肉の策なのであって、私達凡人には、もったいないほどの先生なのです。私は不才ではありますが、増山先生を見習って、もっと勉学にはげみ、将来りっぱなコンポの先生になるのが夢なのです。

もう一つ、先生のことでは忘れてはいけぬのは、先生が、自治会

の顧問をなさっているという事実です。先生は、私達生徒のものである自治会を何とか成立させようと、本当に努力して下さいました。私は、先生が孤軍奮闘しておられる姿を見るたびに、心から、先生に頭が下がり、それとともに私達、生徒のふがいなさを嘆いたものでした。何んだかんだと言いなながらも、先生は、私達を心配して下さい、見守っていて下さるのです。こんな先生のもとで高校生活を送れる私達の、この幸せ。ああ、増山先生よ。いつまでも！！

## 村岡多恵 先生

「塩は小さじ *just* に計り、ルーはママコにならないように少しづつのばしなさい。このごろ野菜はペラボウに高いから安い冷凍食品は便利だっせ。電子レンジだとももの二分でもどります。冷凍車は便利ですね。冷凍車の来る所手をあげて：：あっそう、どこも無いの。阪急の地下で○が売ってました。ねこがじゃれるような手つきではあきまへんな。」

以上先生の授業風景を少し紹介させていただきました。大手前にいる女の子でこの先生を知らない人はいないでしょう。いろんな形で、うるわしき乙女の心の片すみに残っていることと思います。

先生は、常に清潔好き。家庭科室のそうじに当たったクラスの子は一年間、相当な覚悟でしなければならぬ。一時間のそうじなんてザラ。水一滴でも落ちていてはいけぬそうです。調理実習の後にはなべの向きまで元のとおりでなければならぬ。そう、*just* でなければ……。

思い出せば、一年の時のスカートを覚えても、ゾーっとする位しば

られました。生まれつきの不器用で針も満足にもてない私。

すきを見ては目分量でやってやろうとする心意気。ましてや常に、  
just、justの先生とは両極端。授業の最後の御指名には決  
まっただけでいいました。五時半まで延々と続いたスカート縫い。  
用事があるとおっしゃりながらもいつもついて下さった先生。  
あの時鬼にも見えただけ、今思えば他の先生にはなかなかできない  
ことであります。

三年の姉様方に言わせると「あの先生、ほんまはええ人やで、三  
年になっただれでもそう思うわ」とのことです。先生は、こうも  
言われます。「今、うるさいと思われても私はいいいのです。十年、  
二十年先、あなた方が主婦になって何かする時、私の言ったこと  
を思い出してそうしてくれば」と。だから、先生がどういふ気  
持で授業なさっているかは十年程待ってから感想を述べようではあ  
りませんか。今、急いで論評せずに。でも授業の延長には閉口して  
しまいます。お腹がすいたり、用たしに行きたくなってもじっと我  
慢の子であります。先生の一時限は五十分で  
なくて一時間であり、時には八十分になっ  
たりもします。とにかく女学校時代から、大手  
前高校と共に歩んで来られた先生。この学校  
をこよなく愛されているようであります。家  
庭科一すじの人生。いづれ私も女であるから  
には主婦になるでしょう。そうしたら、一週  
間に二時間どころか毎日、明けても暮れても  
家庭科。  
ああ、耐えられるだろうか。



### 森 延哉 先生

森延哉氏 四七年度入学生が生まれた年に大手前高校を卒業され  
た大先輩である。高校在学中は、図書委員として活躍なさった。そ  
して京都大学では、桑原武夫氏や生島遼一氏の講義を受けられ、フ  
ランス文学を専攻された。本校では国語を教えておられる。  
先生には奥さまがひとりいらっしゃる。そして、奈良は法蓮興行  
町に住んでおられるが、森一郎氏とは、縁戚関係も面識も無いそ  
うだ。

森先生は読書家である。常にいろいろなことに若々しい興味を持  
っておられ、「遂に学ばずして終るよりは、むしろ忘るるに如かず」  
とも、「『完成した人間』になりたいと努力する人を好ましいと考  
えずで『完成してしまつた人間』に何の興味も覚えぬ」ともおっ  
しゃる。美術や音楽にも関心が深い、殊に映画がお好きだ。大学  
の入学試験の前日にもご覧になったという話もあるほどだ。

一般に本校では国語という科目は軽視される風潮が強い。そんな  
なかで、森先生の授業  
が広く膾炙されている  
所以は、先生の人徳と  
才能にあるといえよう。  
先生の人徳を最も端  
的に示すのは、担任さ  
れたクラスであり、四  
八年度自治会本部であ



る。彼らが自由に振舞い、かつ則を越えなかったことに、森先生の  
暖い導きがあったことは誰も否認しない。

最後に森先生の才能を表わすものをひとつ挙げよう。

森 ジャングルをひとりの狩猟家が獲物を追って歩いていた。そ  
の後で、大蛇が彼をねらっていた。前からライオンがやってきて  
その狩猟家のみこんでしまった。大蛇は言った。「ボクのハン  
タ、のんだの誰？」

### マスター氏 (食堂の主人)

「マスター」本名不明 「おじさん」などと呼んでも答えない。  
「マスター」と大きな声で呼ぶと「はい はい」と機嫌がいい。  
怪しみには「はい、カツ丼4つになってエ」「食券どうてや」と、  
あの巨体が調理場を、所狭しと動きまわる。現金で注文すると、お  
つりがないと「おつりないねん」といって金額分の食券を渡す。

(これぞ職権乱用)

筆者の主観によると、マスターの玉井が一番うまい。

ところで新入生諸君のため  
に『早く注文する秘訣』  
を教える。

ただ「カツ丼とラーメン」  
などといっているだけでは、  
生存競争の激しい食堂では  
永久に買えない。早く注文  
するには、食券を台の上に



置いてしま。て「マスター、カツ丼とラーメン」といえば、すぐに  
してくれる。注文する順番でなくても、後から手をのばして、食券  
を置いてしまえば、すぐに食える。(しかし新入生は、ちゃんと立  
んでください。)

さてマスターにもみんなの知らない一面がある。ある冬の寒い朝  
早く(冬はつとめて)筆者はいつもより一時間も早く校門をくぐ  
た。(筆者にとってはまさに落葉)食堂の前を通りかかると、まだ  
朝もや晴れぬ中でマスターは、もう食堂の前を掃いていた。そして  
「おはよう」と声をかけると、「おはよう」と元気な声が返ってき  
た。その朝は寒かったけど、何かとても暖かいものを感じた。  
今日もマスターは玉井を作る。「皆さまの食生活のために」

詩

### 無題

それは過ぎてしまったこと  
ずっと昔に過ぎてしまったことなんだ  
それは……  
無邪気だった頃のことなのさ  
自信に満ちあふれていた頃のこと  
昔のことだったに違いない……  
ぼくは写真を持っている  
想い出をとっておくための……  
全てなのですね。



# クラブ紹介

運動クラブ  
文化クラブ  
同好会・委員会

## 硬式テニス部

硬式テニス部は体方向上の過程にあると思われ本校において、最も強いクラブの一つにあげられている。なぜなら、この2年、男子は団体戦で春秋ともに府下でベスト16に進出し、去年の春は3位の栄冠に輝いたからである(その時筆者は補欠)そして今は、男子が2チーム、女子も1チームがベスト16に進出中である。(筆者は正選手)また個人戦でも強く、今年の夏はシングルス4人(筆者を含む)ダブルス2ペア(筆者を含む)が2次予選に出場し、そのうち1人は近畿大会にまで足をのびした。(Ⓐ足をのびしたといつても女子である)しかし、我々のこの栄冠の影には2日に1回のきびしい大阪城トレーニングがある。けれど、これが恒例のマラソン大会で馬のように走れるゆえんでもあろう。また、男子は全校女子生徒の目をひき、コ

ートを駆けるパンサー、女子はコートに舞うチョウと(だれもいってくれないので、勝手に)自負している。

我々はただ強いばかりではなく、きびしさの中にあなたかきがある。例えば優しいOBである。OBはお金があるときはいつでも我々をリMMへ誘惑し、「二味」のお好焼(ベニコン焼)や、「四季」の800円までのもの(プリアラモード)などをおごってくれる。(Ⓒ)カッコは筆者の好物を示した)また先輩後輩のたての関係も強く、とくに、男子が女子にアドバイス(Ⓓ)アクセントは二番目の母音)を与えている姿などは、なかなかほほえましいと筆者は思うのである。

## 軟式テニス部

軟式テニスそれは一度やったらヤミツキになってしまいうスポーツです。教室から食堂へ行くのがメンドーなので昼メシぬきにして

死寸前となるようなグウタラ人間の筆者でもひきつけられるようなみ力あるスポーツであります。もちろん、テニスそのものだけが筆者を引きつけたわけではありません。あの赤土の上に乗る人々が実に個性的なのです。試合中に突如としてバレー練習を始めるキャプテン・T両君。トリックテニス、コミックテニスと絶讃され、そのあまりに意外性に富んだテニスに敵校の応援団も抱腹絶倒したY・Yコンビ。彼らのバレーはテニスの常識をくつがえしたのです。又、敵のスキをつけて残忍なサーブを放つK君。ハーフの鬼(?)り君。帝王サシショウオ、ジーさんヨッサン。一年生も少数精鋭。ようまあこんだけ集ったなあと思わざるを得ないのです。

さて、練習風景は、というと、時折「ファイト!!」と叫ぶ声が聞え、これは部の誰かが我に帰ったためで、それまでは練習に没頭のあまり声も出ないのです。ベンチにすわっている者もいますが、これは他人のフォームのどこか悪いのかを熱心に研究しているのです。かような熱心な練習のかいあって他校との対抗試合は目下連戦連勝。先に述べたY・Yコンビなどはパフェクトゲームという偉業をな

し遂げたのです。が、残念にも公式戦はクジ運が悪く(?) あまり見るべき成績はあげていませんが、これからは中央大会に大手前の名をとどろかす事でありましょう。以上男子中心に述べましたが、女子も大阪市のトップ・クラスというツワモノが揃っているとの事。新入生諸君(P.R.)来部されたし。

## バスケット部

スピード、高さ、力強きのSPORTS。それがBASKEET。体育館、コート、大坂城と練習場所にはことかかず、豊富な指導者(?)のお蔭で目を見張るべき走力。豊かなジャンプ力、抜群のBASKEETセンスがつくはず。日々の絶ゆまぬ練習と各自の精進によってつちかわれた体力と精神力はいつの日か、必ずや、君達のものとなってその真価を発揮するであろう。さて、わが部を紹介しよう。

○顧問―大手前生ならご存じの通り

R先生 A先生 F先生 W先生

○OUBU会があり、さし入れ多し。

○戦績―男女共に少なし。(激しさをさめる練習の為か?)：一部の声しかし新一年生男女諸君の手で輝

かしい伝統に新しいページを書き加えようではないか。

『残り時間3秒。スコアは61-60、全日本一点のリード。大手前、必死の反撃。大手前のシューター○○、右45度より約10メートルの超ロングシュート!残り1秒○○の手から離れたボールがあざやかな放物線の弧を描き鋭いバックスピンのかかり、白いゴールを駆けぬけたと同時にピストル一発。タイムアップ。大手前、劇的な逆転勝ち!』

「おい○○起きんかい。論社の時間、とっくに終わったぞ」との声をうつらうつら耳にしやと目覚めて、食堂へ走るのであった。「バスケット強い 飛べ! リングへ 走れ! コートせましと、若き血が若を呼んでいる。」

## 登山部

「ほんとうの大自然の中の最も人間的な生活」この事を我が登山部は目指している。世間にはよく、「自然はすばらしい、大自然の中にいだかれた生活を」と、そういう事を口にする自然愛好家なる人がいる。けれどもほんとうの自然とは、そういう人々が考えるものではなく、というより彼らが考え

ているのは全く穏やかな静まりかえった大自然のほんの一面にすぎないのである。雨風の吹きすさぶ山でのテント生活。これは確かにつらく苦しい事である。けれども、そのつらさ苦しさを幾度も体験してこそ、ほんとうの大自然というものをしっかりと把握できるのである。とにかく我が登山部が求めんとするのは、「何より山が好き」と、そういう人である。少々体力が弱くてもけっこう。それは自主的に他人以上の訓練を繰り返してゆけばなんとでもなる。

## 映画研究部

諸君、映画は好きだろうか? ならば映画に入るべきである。などという、膚突すぎるのではあるが、事実それに言葉は尽きるのだから仕方がない。

我クラブは、部屋も小さく、目立つような活動はしない。が、それにもかかわらず、部員は部歴に充満し、現在も男子を部長に、映画の好きな人間たちが集まっているのである。目立つ活動はしない、といっても、やることはいろいろある。我々が、映画で何をしているか具体的に述べるのは、ある意味で困難だ。

新着の映画の券をまっ先に手に入れて、他の生徒たちに売り払う前に自分たちでさっさと見に行ったり、招待券や試写会券をもらって財布をすりへらさずに映画鑑賞ができる：：映画好きな者ならではの楽しみを味わえる。こんな事も楽しい活動の一部といえるだろうか。その点は、諸君の解釈しだいだが：：自治会祭や文化祭となれば、なつかしい名画を上映し、（むろん何を上映するかは我々の自由）行事のごとに8ミリをもって、大手前に生活する人間たちを追いかけ、フィルムに収め、記録映画作成となる。時間の余裕があれば、自分たちで映画を作成し（アニメーション、ロマン、アクション等）、とにかく創造性に満ちているクラブである。そして、たまにはみんなでお菓子をかじりながら映画について話しあうのも一興である。思い出の映画や、好きな俳優について、テーマミュージックについて、専門的なカメラのとりえ方テクニクに関して：：日頃友だちと話すこともあるかもしれないが、こうして「映画を好きな者」という共通性で集まった集団で話すこと、また違った楽しさに出会えるものだと、いうことに気づくのではないだろうか。

部員の一人一人に熱意と協調性、行動力、

そんなものがあれば、いくらでも活動は大きくなり発展していく。それが映画研究部なのである。これで、最初に言った事がわかってもらえるだろうか？好きな者なら、だれでも映画に入るべし。入って活動をおし広げ、自ら楽しんでいくべし：：である。文化系のクラブは、運動系に比べ、とかく地味な存在になりがちであるが、だからといって見逃せないなにか：：そんなものを見つけると有意義ではないだろうか？我々が自ら開拓者となりクラブの中に有意義なものを築きあげていくすばらしさを感じていただきたい。そして映画にそういうものを求めていたゞければ喜ばしいと思っている。

## 地 歴 部

地歴部の活動は地味だ。しかし部員はみな情熱に燃えている。本来は地理・歴史クラブで地理活動も含まれているが、近年の部活動は主に歴史をやっている。こゝ三年間、大阪シリーズと題して「大阪城」「大阪の寺町」「大阪商人」と取り組んだ。去年の「大阪商人」について研究課題を記すと、研究題目が決まったのが三学期、時はあわたゞしく過ぎ

新学期に入ってしまった。関係書物に没頭し(?)訪問する店をピックアップなどしているうちに、夏休みに突入。が然あせりだした。夏の暑い日ざしの中を地歴部の娘たちは、大阪市内を歩きまわりお店を訪ねた。

世間知らずであつたから、いろいろ不手際を齎めたが、初対面の人と話すという、なかなか社会勉強になつた。文化祭においての発表は盛況であつた（著者の自己満足か？）月に一度、見学会へ行く。京都や奈良などの寺、古墳跡を訪ね回る。有名な所だけでなく、知られざる地を求めて歩く。UBの方々も同行してくださつて楽しいよっ！（時にはおいしい物にありつける）

夏には「はにわ合宿」なるものがあつて、UBが招待してくれる。（何とおやさしい方々であることか？）花火大会などとして、夜ふけるまで語り明かす。

地歴部は諸君の決断を待っている。まず、本誌三階の「いにしえの間」へおいで下さい。



## 新聞部

部屋、どこにあるかご存知でしょうか？みんなに知られているようで案外知られていないこの部屋。物理教室横の階段を登りつめたところにあるのです。戸をあけ、部屋に一歩足を踏み入ると、部員以外の人は誰でも「さすが？」と思われるにちがいないと思います。なぜなら、「新聞部」というだけあって、部屋中に新聞が散在しているからです。それに、何年も前の新聞が保存されており、それを見返していると若き日の先生方のお顔我が校の歴史などを知ることができ、なかなか楽しいものです。また、部屋のガラスのはいっていない窓からは運動場を一望することができ、夏には風が吹きぬけていくので割合涼しいのです。しかし、冬の厳しさは並大抵のものではありません。風はあつちの窓から吹き込んで部屋の中を荒らした後こつちの窓から出ていくという状態で、そのうえ、電燈がないため、五時近くにもなるともう暗くて……。

私たち新聞部はこういう環境にもめげず、毎日頑張っているのです。

ところで新聞部の活動というのは、新聞をつくることですが、現在一年間に二回しか発行できません。部外者からみると「たったの二回」という感覚があると思いますが、実状からいってこれで精いっぱいなのです。そのかわりと言ってはなんですが、「いかづち」を発行しています。これは、見てくれは貧弱ですが、なかなか手間のかかるものです。部員は十五名（一年生に男子のいないのが気がかり）なのですが、ガリ切りをしてくれる人がいなくて……もしガリ切りの好きな方がいらっしやったら、ぜひ新聞部へ来てください。

## 生物部

本館三階、被服室の隣に居を構える生物部でございます。ラッカーズプレーの黄と緑でひととき大きく「生物クラブ」の五文字がうき出すしくみになっております。

昨年の文化祭では、偉大なる部長U氏がその老体にもめげず、心霊写真をふりまわし、かつ達筆をふるっての活躍で大成功？（空白七字分）をおさめました。活動内容は、月一回大阪城の堀へ、プランクトンの繁殖を調べ

に行ったり、街路樹下の雑草の分布を調査したり、U氏の好きなセイタカアワダチソウをつかまえたりしました。夏休みは、自主研究X、UBとの交歓会をしました。以下は生物部新聞CMLLSより。

去る八月三日午後四時われら生物部員とUの一行は、炎暑の中、金剛山の登頂に成功した。（地球始まって以来の快挙……）

Aシ谷から金剛山山頂へ行く予定であったのだが、どういうわけか頂上がない。頂上どころか道もない。早い話が道に迷ったのである。（原因、部長が地図を持って先頭にたっていたから、道が逃げていったのであるうと思われ。……部員一同賛成） 仕方がないので、谷川の中を歩いた。傾斜はますます急になり、ついに百度になった。全身ビシヨ、ビシヨ。とうとう午後一時、登山部に臨時改名。

さんざん歩いてのどはからから、足はガクガク。が、命と夕食がかかっている、黙々とはいまわる。頂上に着いたのは四時、帰宅したのは八時。

いやはや恐ろしい遠足となった。最も足の短い小四の男の子とだれかさんは、元気でさっさと登っていった。途中でカブトやクワガタが親切にもつかまってくれた。……略」

ごらんのようにたいへん愉快なクラブですから、どんどん皆さん入部してください。お待ちしております。

### 図書委員会

図書委員会はクラブと違って、委員会ですから部費はいりません。我が校の図書館を生徒諸君に快く利用していただける様、日夜努力しております。生徒諸君のために奉仕するということも結構気持のいいものです。それに驚く程高価になっている種々の本を気整に読めるという利点もあります。大手前の生徒は比較的良好本を讀んでいるようですが、最近の若者は本をあまり讀まなくなったと言わ



れています。そんなことを言われればなしでいいのでしょうか？ 否、今のうちにもっともっと本を讀んでおくべきです。それには図書館の本を利用しましょう。図書館でよく見ながら本屋さんへ行っても遅くはありません。そして図書館の本をよく利用するために、図書委員になりましょう。少しおしつけがましいような気もしますが、このまゝつぱしりです。図書館で本を借りて読むと、専門的知識を会得できますし、また雑学家にもなれます。皆さん、こぞって図書委員になりましょう。とにかく図書委員会は新聞部でも文芸部でもないことを知ってほしいのです。大手前図書委員会の存在を皆さんの心に留めておいて下さい。

尚、図書委員になるとこんな歌文を書くようになるのか、などと思わないように。こんな文を書くのは筆者一人であります。(K・Y)

### S F 同好会

ジブシー球所というのがあるのを御存知かな。そう、ロッテ。ではジブシークラブは？ そう、などと喜んで肯定するもんじゃないが我S F同好会がそれなのである、クラブ員は

若干。同好者の集まりなんてもんじゃない；もう「氣狂い」の寄り集まりだ。その「氣狂い」の集団が放課後ともなると、安住の地を求めて校内をさまよい歩くのである。そしてその殆どが失敗し（例えばどの教室にも先客がいたり、内部に脱落者？が出たりするとか）いつのまにか活動は自然消滅。やる気はあるのだがなかなかまとまった活動ができないのが我S F同好会というわけ。悲しむべきか、喜ぶべきか？……

たまたま、思いがけなく、意志に反して？活動するとなると、なかなかどうして、その「にぎやか」なこと。この時ばかりは改めて女子の声の大きさに驚かざるを得ない。（言い遅れたがー 本当は言いたくもないがー 我同好会は女だらけ、こゝはもしかしたらS F同好会ではなく漫研ではないだろうか、と思うこともしばしば）自分の「ひいき」の作家や愛読書を前にけんけんごうごう、ほっといたら何時間読かわかつたもんじゃない。（一度やらせてみるのもおもしろいと思うのだけだ）そしてその愛読書というののもっぱらブラッドベリヤや屋新一で、空想や幻想の世界に溺れているといった状態だ。（果てには「不思議の園のアリス」も出てくる始末、

## 編集後記

おもしろいには遠くないか。U F R やロケットが好きなの話なんぞでんで問題にせず、ブラックユーモアに話の花を咲かせ、松本零士のさし絵など模写したり、漫研と見まがう原因になるような絵をかいいたり、少女趣味のことおびたゞしい。少女趣味が悪いといふんではないが、もっと広いところに目を向けてほしいものだ。例えば近年話題になったあるいはなっている超能力、U F U 等々。テレビや漫画にひんぱんに出て相まっているから、というのではなく、またそれだけなら、「聞きかじり」で終ってしまっわけだし、その背景にある宇宙に視野を広げ、それこそ少女趣味的に、いろいろ空想してみるのもいいんじゃないかな。ボクはそう思う。

我同好会、殆ど全く自由に、テキトーにやっているのも、詰まる所、それが理由じゃないかと思う。S F の世界に限りはない。強いて言えば、その人の考えの及ぶところ。この記録はいくらでも更新できる。ボクはそう信じている。そしてそれだからこそ、この同好会に入部したんだ。少しでも暇と心の余裕を（なるべくならお金も）持っている方、入りませんか。

十三号では、ページ数があまり、埋めつくすのに苦労したほど、だそうです。ところで十四号では、諸物価上昇の折りから総数四十ページとなり、編集者の方々は大変苦労されたようでした。

そして十五号に至りましては、いよいよ予算の都合がつかなくなり、一般生徒の皆さんから予算を集めるといふ、異例の措置をとらねばなりませんでした。

これについては、いろいろと問題もありましたが、とにかく十五号は完成しました。できましたら、これをいつまでも残しておいて、いつか皆さんが家庭をもたれた時、「息子よ、これがお父（母）さんの母校だ。」と、愛児の頭をなでながら、話して下さいれば、編集者一同、最大の光

栄と存じます。



昭和五十年一月二十日 印刷  
昭和五十年一月三十日 発行

非売品

編集者 大手前高校自治会文化部

代表 大江弘幸

発行責任者 文化部顧問 桑原 啓

印刷所 ナニワタイプ有限会社

大阪市南区松屋町二一

電話 七六一 三五六二一

発行所

大阪府立大手前高等学校自治会  
大阪市東区大手前之町二